岩沼市地域福祉活動計画

（平成２７年度～平成３１年度）

社会福祉法人岩沼市社会福祉協議会

目　次

１　地域福祉活動計画の概要

①　地域福祉活動計画ってなあに？・・・Ｐ１
②　計画の位置づけは？・・・・・・・・・Ｐ１
③　計画の期間はいつからいつまで？・・Ｐ２

２　岩沼市の現状

①　今の岩沼市ってどんなところ？・・・・・Ｐ３
②　計画づくりはどのようにしたの？・・・Ｐ３
③　岩沼市の福祉課題ってなあに？・・・・・Ｐ４～５

３　これからの取り組み

①　基本理念は？・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
②　基本方針は？・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
　　体系図・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７
③　推進目標は？・・・・・・・・・・・・・Ｐ８～１４
　　事業一覧・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１５

○　資料編

１　用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１６
２　アンケート結果
　　Ⅰ　小学６年生・中学３年生・・・・・・Ｐ１７～２０
　　Ⅱ　一般・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２１～３４
３　座談会結果・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３５～４０
４　地域福祉活動計画策定委員会設置規程・・Ｐ４１
５　策定委員及びワーキンググループ・・・・Ｐ４２
６　計画策定までの経過・・・・・・・・・・Ｐ４３

岩沼市地域福祉活動計画の策定にあたって

東日本大震災に際しまして、市内外の皆様から多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。

東日本大震災において岩沼市社会福祉協議会では、平成２３年３月１２日に「岩沼市災害ボランティアセンター」を設置し、多くの皆様のご支援のもと被災者支援を現在も継続的に行っております。そうした経験から人と人とのつながりや支え合いの大切さを再認識いたしました。

震災から４年が経過し、岩沼市は復興のトップランナーとして順調に復興が進んでおり、平成２６年３月には市の最上位計画である「いわぬま未来構想」が策定されました。

これを受けてこの度本会では、地域住民や関係機関・団体と連携しながら地域福祉を高めるために**「岩沼市地域福祉活動計画」**を策定いたしました。

この計画では**「みんなでつくる　福祉のまち　いわぬま」**を基本理念とし、平成２７年から平成３１年の５ヵ年の計画期間において、地域に暮らす子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も住みなれた地域で誰もが安心して暮らしていくために、**みんなで共に**行動していく道筋を示したものです。

人が集まる場所づくりやボランティア活動などに地域住民が主体的に関わり、また、人が社会から孤立しないようにネットワークを構築できるよう、みんなで共に地域福祉に取り組む計画となりました。この計画が岩沼の地域福祉活動において大きな一歩になるよう、地域住民をはじめ関係機関・団体等の更なるご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

今回の計画策定にあたり、ご審議いただきました地域福祉活動計画策定委員の皆様、アンケートにご協力いただいた市民の皆様・小中学生の皆様、座談会にご参加いただいた地域住民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

平成２７年３月

社会福祉法人岩沼市社会福祉協議会
会長　　三　浦　一　朗

1　地域福祉活動計画の概要

① 地域福祉活動計画ってなあに？

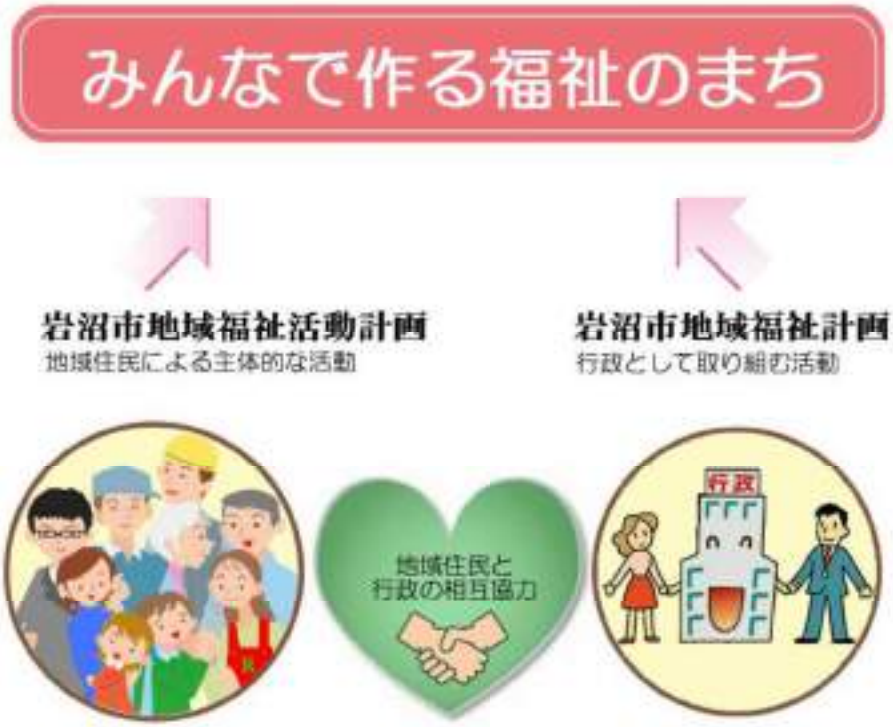
地域福祉活動計画とは、地域に暮らす子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も誰もが安心して暮らしていくために、みんなで共に行動していく道筋を示したものです。私たち一人ひとりが抱える困りごとを地域社会全体の課題としてとらえ、その課題を共有し協力して解決していくことが出来るよう、みんなで連携・協働しながら取り組んでいきましょう。

また、今回の計画策定にあたり、市民のみなさんからアンケートへのご協力、市内２カ所で行った住民座談会へご参加をいただき『地域への熱い思い』を感じることができました。この計画は、これからも地域のみなさんと共に作り上げ、**誰もが幸せを感じられる社会**を実現するための身近な計画としてご参加・ご活用いただければ幸いです。

② 計画の位置づけは？

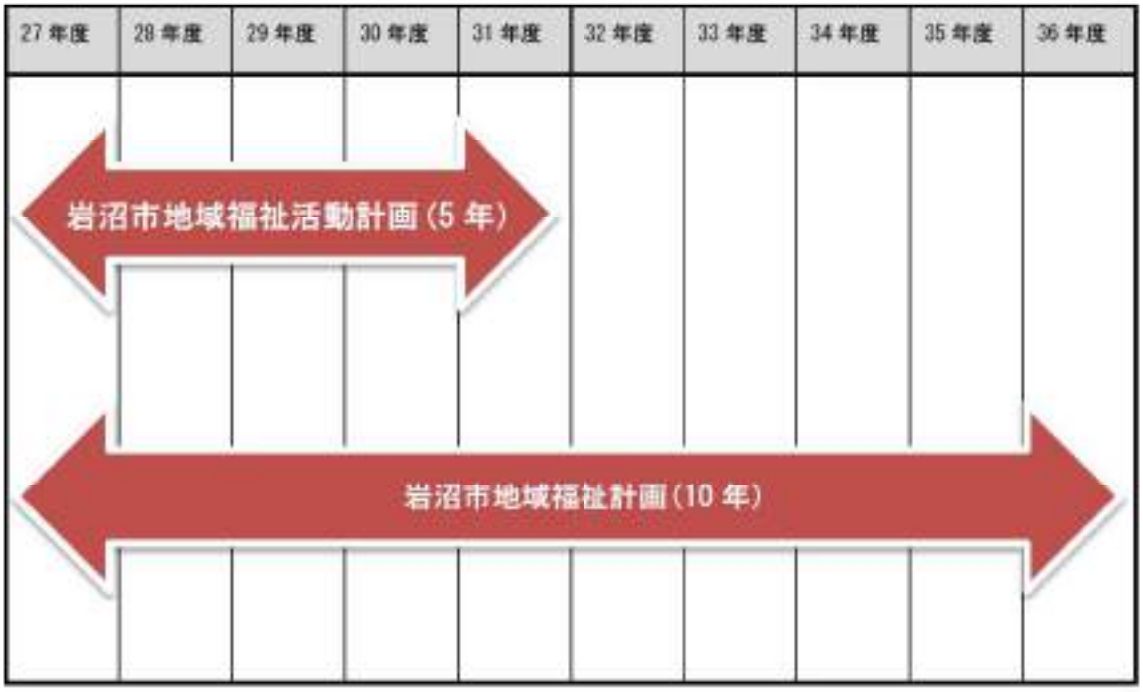
岩沼市と岩沼市社会福祉協議会は、協働して地域の課題を把握し、解決していかなければならず、岩沼市が策定した岩沼市地域福祉計画との連携が必要です。計画としては別々のものですが、地域福祉を推進するという目的は同じです。

共通の目的に向かって、これら二つの計画の整合性が図られ、いわば車の両輪となって地域福祉を進めていくことができるよう、住民が中心となり、岩沼市と岩沼市社会福祉協議会とがお互いに連携して計画を進展させていくものです。



③ 計画の期間はいつからいつまで？

この計画は、平成 27 年度から平成 31 年度までの５ヶ年を計画期間としています。



2　岩沼市の現状

① 今の岩沼市ってどんなところ？（計画の背景）

岩沼市は宮城県の中央部に位置しています。市域は東西約 13Km、南北約 10Km総面積 60.7Km²を有し、西部の山岳地域から東部の太平洋に至るまでなだらかに広がった平野が展開し、南部の市境には阿武隈川が仙台湾に流入しています。また、ＪＲ東北本線と常磐線の分岐点、国道４号・６号の合流点であり、さらに国際線のある仙台空港が所在する、交通の要衝であります。

人口は、昭和 20 年代以降増加傾向にあり、平成 22 年には 44,187 人 15,519 世帯となりましたが、平成 26 年には 43,897 人と人口が減少する一方で、世帯数は 16,743 世帯となり、単身者世帯の増加傾向が見受けられます。

また、岩沼市でも、15 歳未満の人口は減少し、さらに 65 歳以上の人の割合も増えていますので少子高齢化が着実に進行しています。

障がい福祉関連では、身体障害者手帳所持者数が 1,512 人。療育手帳所持者数が 295 人。精神障害者保健福祉手帳所持者数が 182 人となっています。（平成 25 年現在）また、生活保護受給者数も増加しており、平成 21 年は 159 世帯でありましたが、平成 25 年には 219 世帯となっています。

（岩沼市地域福祉計画より一部抜粋）

② 計画づくりはどのようにしたの？（検討と公表）

岩沼市地域福祉活動計画の策定にあたっては、関係行政機関職員及び社会福祉協議会職員、学識経験を有する者で構成するワーキンググループが、これまでの取り組みに対する評価結果を踏まえ計画の素案を作成し、「住民を代表する者」「関係団体等の役職員」「関係行政機関職員」「学識経験を有する者」「本会の役職員」で構成する策定委員会がその素案を基に検討する方法で取り組みました。

（1）岩沼市地域福祉活動計画素案の作成方法

① 地域福祉活動に関するアンケートの実施

② 地域住民による座談会の実施

③ 意見公募の実施

④ これまでの地域福祉活動の評価

（2）ワーキンググループでの検討

アンケートや地域住民による座談会の結果、これまでの地域福祉活動の評価を踏まえ、岩沼市地域福祉計画を参考に、新たな地域の支え合いの取り組みについて検討を行いました。

（3）策定委員会における検討

【みんなでつくる　福祉のまち　いわぬま】の基本理念を掲げ、ワーキンググループが作成した計画の素案や意見公募を踏まえ検討を行いました。

③ 岩沼市の福祉課題ってなあに？（アンケート、住民座談会から見えた課題）

岩沼市地域福祉活動計画を策定するにあたり、市民アンケートや住民座談会を通して、以下のような共通課題が明らかになりました。

アンケートの実施

① 児童生徒
市内小学校６年生・中学校３年生
各学校１クラスを対象に協力依頼
回答数２５０(回答率 100%)

② 一般
市内 20 歳から 69 歳を無作為抽出し 800 名を対象に郵送により協力依頼
回答数３１３(回答率 39%)

※詳細については P16～P33 を参照下さい

住民座談会の実施

① 中央一丁目地区
岩沼銀座繁栄会会議室を会場に
１２名参加

② 里の杜地区
岩沼市総合福祉センターを会場に
１８名参加

それぞれ KJ 法を用い、『地域での支え合い』をテーマに意見を出し合いました。

※詳細については P34～P39 を参照下さい

（※KJ 法・・・文化人類学者の川喜多二郎氏が考案した発想法で、氏の名前のアルファベットから付けられた名称。収集した多量の情報を効率よく整理するための手法。収集した情報をカード化し、同じ系統のものでグループ化することで情報の整理と分析を行う）

【課題１】
意識の改革

公助への期待から地域福祉に対して受動的な傾向にあります。

福祉への関心と理解を高め、地域生活での様々な課題を個人だけではなく、地域の問題として捉える必要があります。それぞれの自発的な取り組みや住民同士の関わり合いへの意識の向上を図ることが必要です。

◆主な意見◆

・福祉を支えていくのは、市役所などの公的な機関
・子育てを終え、介護世代までいかない人の意見が少ない
・自分たち主体で何ができるかを考える

【課題２】
気軽に集う機会

挨拶の習慣はあっても、昔のように誰もが気軽に地域のなかで付き合うことや交流の機会が少なくなっているようです。

地域の一人ひとりが、年代や性別、障がい等にかかわらず気軽に継続的に集まれる機会が必要であり、コミュニケーションを通した顔の見える関係づくりが必要です。

◆主な意見◆

- 集会所がないので、近所の人と集まれない
- 独居やアパートなどの世帯や住環境でコミュニケーションの格差がある
- 町内の活動に参加する人が決まっている

【課題３】
福祉を担う人材

地域全体の高齢化が進み、地域(福祉)活動のリーダーが限られています。また、活動の機会が少ないためリーダー育成に課題があるようです。

多くの人が地域(福祉)活動の担い手として活動していくことが望まれ、子どもの頃からの地域活動への参加など、リーダー育成も視野に入れた取り組みが必要です。

◆主な意見◆

- 少子高齢化が進んでいる
- 転入者が少ない
- 町内会の役割の選任に困っている
- 機会がないからボランティアの経験がない

【課題４】
地域づくり

地域福祉の充実に住民同士の支え合いの必要性を感じている人が多いにも関わらず、近所付き合いの希薄化や個人情報の取り扱いなどが、地域づくりや見守り活動の支障になっているようです。

住民同士の話し合いや地域課題の共有を図り、特に若い世代や女性の関わりが地域福祉の充実につながることが期待されます。

◆主な意見◆

- 子どもからの挨拶がコミュニティー形成になっている
- 個人情報保護の観点から、昔のように世話する人が地域にいない
- 若い世代、女性の参加が少ない
- 町内活動が貧弱
- 同じ町内の人が分からない
- 働いているときはなかなか参加できない

【課題５】
協働・体制の強化

制度やサービス・関連する団体・機関など必要な情報が、地域や必要な方に届かなければ福祉の充実を図ることはできないと認識しているようです。

地域にはさまざまな福祉活動団体や関係機関があり、暮らしやすい地域づくりの活動につなげるためには、情報発信と共有できる体制や連携が必要です。

◆主な意見◆

- 情報が入ってこない
- 窓口をわかりやすくして欲しい
- すぐに相談できる人や身近な情報があることが大事

3　これからの取り組み

① 基本理念は？

住民、関係機関・団体、行政、社会福祉協議会が連携・協働し、それぞれの役割を担いながら福祉を高めていくため、次の基本理念を掲げます。

みんなでつくる
福祉のまち
いわぬま

これまで住民座談会・アンケート・策定委員会などを通して、住民のみなさまからいただいたご意見の中から、「住民一人ひとりが、住みやすい福祉のまちづくりの担い手という意識をもつことが大切。」という思いを込めて掲げました。

思いやりを互いに持ち、一人ひとりが役割を担い、共に支え合い、これからもこのまちに住み続けたいと思える**“誰もが幸せを感じるまち　いわぬま”**をみんなで作っていきましょう。

② 基本方針は？

基本理念を目指しこれから取り組む方針として次の３つを掲げます。

◎　福祉の心を育み幸せづくりをみんなで共に

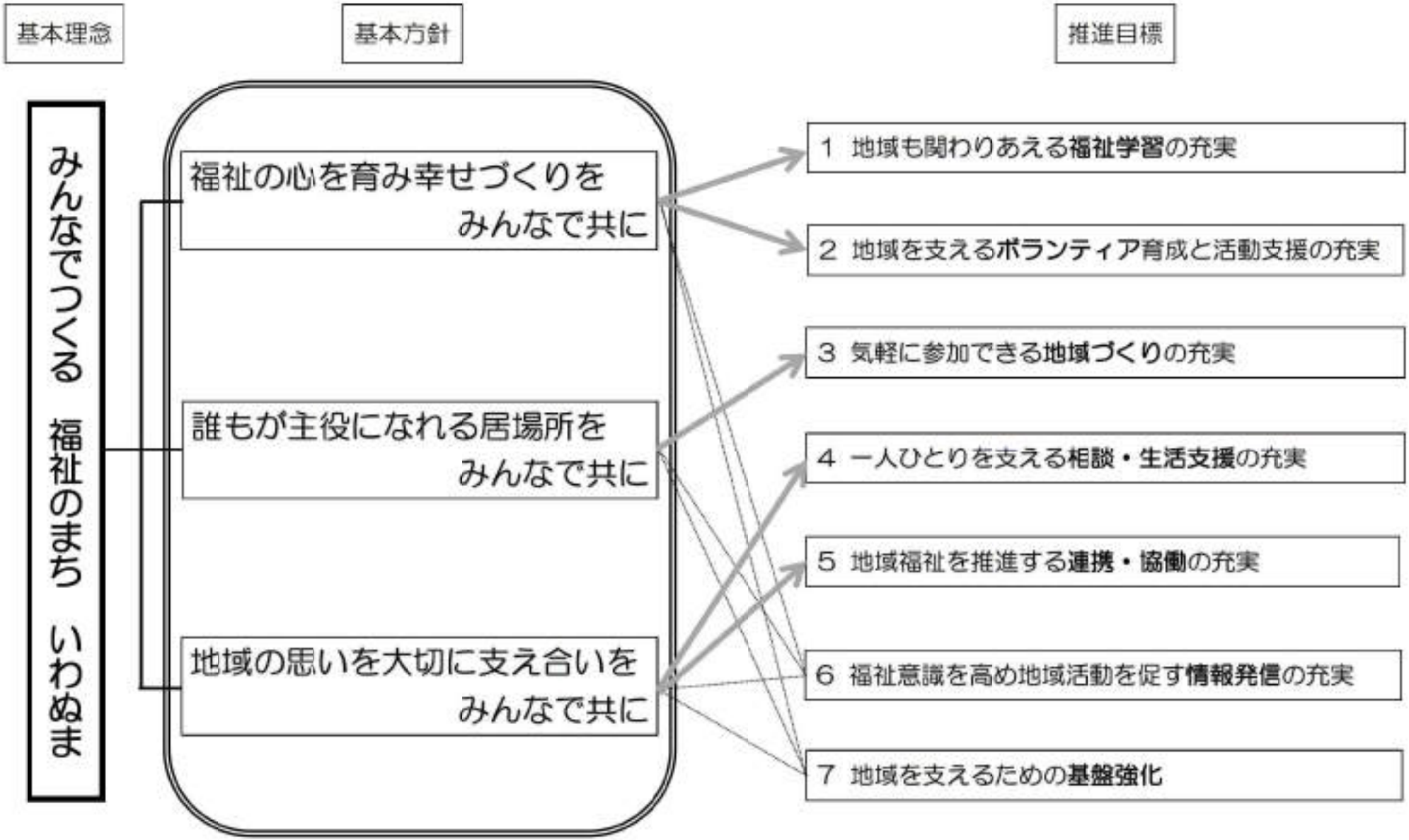
子どもから大人まで誰もが幸せを実感できるよう、福祉学習やボランティア活動などを通して思いやりの心を育むことを、みんなで共に取り組んでいきましょう。

◎　誰もが主役になれる居場所をみんなで共に

一人ひとりが役割を担い自分の居場所が実感できるよう、社会を構成するすべての人が尊厳をもって社会の一員として参画交流することが可能な社会を目指すため、みんなで共に取り組んでいきましょう。

◎　地域の思いを大切に支え合いをみんなで共に

一人がみんなを支え、みんなが一人を支え、一人の思い、みんなの思い、地域の思いを形にできるよう、広報活動や各種相談・支援事業を活用するなど、みんなで共に取り組んでいきましょう。


基本理念
基本方針
推進目標
みんなでつくる　福祉のまち　いわぬま
福祉の心を育み幸せづくりを
みんなで共に
誰もが主役になれる居場所を
みんなで共に
地域の思いを大切に支え合いを
みんなで共に
1　地域も関わりあえる福祉学習の充実
2　地域を支えるボランティア育成と活動支援の充実
3　気軽に参加できる地域づくりの充実
4　一人ひとりを支える相談・生活支援の充実
5　地域福祉を推進する連携・協働の充実
6　福祉意識を高め地域活動を促す情報発信の充実
7　地域を支えるための基盤強化

推進目標　1　地域も関わりあえる福祉学習の充実

【現状と課題】

小中学校各1校を福祉教育実践普及校に指定し、二年間福祉教育に力を入れていただき、指定終了後には福祉教育実践研究会において、取り組みの発表をしています。

また、毎年小中学生を対象に福祉作文の募集を行い、児童生徒に福祉思想の高揚を図るとともに、学校の授業の一環で福祉体験学習のコーディネートや講師の派遣、直接学校に行き福祉に関する授業を行っています。

夏休みには小学生を対象としたボランティア体験教室を実施し、小学生のうちから思いやりの心を育むきっかけを作っています。

しかしながら、二年間の指定終了後の福祉教育の充実や、小学生から中学生への継続的な福祉教育に課題が残されています。また学校、社協、関係者だけが集まり行っていることが多く、今後は地域のみなさんに参加していただけるような取り組みが必要です。

また、アンケート結果によると小中学生のボランティア活動について、経験したことのある児童生徒は3割程度となっています。さらに活動してもらえるような機会づくりが必要です。

【取り組み内容】

引き続き福祉教育に力を入れていくとともに、子供たちの現状と課題を地域のみなさんにご理解してもらい、これからの福祉を担う子供たちの成長を共に見守り、一緒に学んでいけるよう取り組みます。

1. 継続的な福祉学習・福祉教育の実践

福祉教育実践普及校の指定を継続して実施し、二年間の指定終了後においてもそこで一旦終わるのではなく、引き続き福祉教育への取り組みに力をいれてもらえるよう学校に働きかけます。

また、低学年から高学年、小学生から中学生へとそれぞれ段階・継続的な福祉教育についても取り組めるよう、市内小中学校や関係機関にあわせて働きかけていきます。

さらに、報告会においても、関係者だけでなく父兄や地域のみなさんに参加していただけるよう、周知や呼びかけを強化していきます。

2. 認め合える心を育む

福祉体験学習では学校や社協、関係機関がさらなる連携をし、外部や地域のみなさんなどを広く講師に迎え、単に体験をするだけで終わりではなく、自分達が地域の一員であることの認識や、当事者へのさらなる理解、相手の立場になって考え行動できる思いやりの心を育むよう進めていきます。

3. 福祉に触れる学びの実践

夏休み小学生ボランティア体験教室では、早い段階からボランティア体験や活動している人に触れる機会を作ることによって、ボランティア活動への興味や関心を持ってもらい、今後ボランティア活動へ参加する時に身構えることなく、積極的に参加してもらえるよう、あわせて地域での活動にも参加していけるような取り組みにしていきます。

キラリ事例～小学生ボランティア体験教室～

社協で実施している配食サービスボランティアを小学生に体験してもらいました。

実際にひとり暮らし高齢者のお宅にボランティアの方と一緒にお弁当をお届けし、ご利用されている方から大変喜ばれ感謝されることで、ボランティア活動の意味や充実感を体験できたのではないでしょうか。

推進目標　2　地域を支えるボランティア育成と活動支援の充実

【現状と課題】

アンケートでは、ボランティア活動に参加しない理由として、「自分のことだけで精一杯」、「忙しくて参加する余裕がない」、「参加するきっかけがない」などを理由とする方が、6割近くに上りました。

その一方で、「自分の親が施設でお世話になったから」、「震災のときに、自宅をきれいにしてもらったお返しに」と、ボランティアを始めた方がいます。また、「誰かに必要とされていることが実感できるから」、「"ありがとう"の言葉に感動して」と、自分なりの楽しみを見つけながらボランティアを続けている方もいます。

ボランティアはみなさんの生活に張りや楽しみを与えてくれます。さらにボランティアは、地域社会とのつながりを保つこともでき、地域に活力を与えてくれます。みなさんの生活をより豊かにするためにも、ご自分にあったボランティア活動をみつけてみてはいかがでしょうか？みなさんの"ボランティアをしてみたい！"の気持ちを応援し、情報提供や気軽に参加できる仕組みづくりをさらに充実させることが課題となっています。

【取り組み内容】

1. ボランティア育成の推進

ボランティアに対する市民の疑問や不安を解消し、ボランティアを身近な活動と意識したり、高齢者自身が社会における役割を見出したり、生きがいを持って積極的に社会参加するためのボランティアを育成します。

また、子どもたちが社会の一員として活動するきっかけづくりや、多様な人との交流を通して、人を思いやり、違いを認め合える心を育んでいきます。

2. ボランティア活動支援の充実

気軽にボランティアに参加できるよう活動場面の提供（情報提供）を積極的に行い、自身の特技や経験を活かしたボランティア活動を希望する方へ、活動先をご紹介します。

また、比較的誰でもイメージしやすく、活動しやすいボランティア（雪かきボランティアや、ごみ拾いボランティアなど）の情報を提供し、ボランティア潜在層へ活動の働きかけを行います。

3. ボランティアセンター機能（仕組み）の充実

「ゴミ出しを手伝って欲しい」「話し相手がいれば・・・」「散歩に付き添って欲しい」など生活のちょっとした困り事や不安ごとのニーズを地域や関係機関と連携をとりながら把握し、そうしたボランティアを必要としている人と、ボランティアをしたい人との需給調整を図ります。

キラリ事例～コミュニケション麻雀ボランティア～

「生きていても仕方ない。」"コミュニケーション麻雀のあつまり"に初めて参加したとき、ふと漏らしたAさん（男性）の一言でした。その後Aさんは、毎月行われるコミュニケーション麻雀のあつまりに参加し、徐々に顔なじみも増えていきました。また麻雀の教え方も上手なため、初心者のお年よりにもとても頼りにされました。さらには、市内外からコミュニケーション麻雀の指導に来てほしいという依頼も入り、同じあつまりに参加している人たちと一緒に出掛けることも多くなってきました。「こんな自分がまさかボランティアになるなんて…」と、少し恥ずかしそうに話ってくれるAさん。しかし「あのとき、勇気を出して最初の一歩を踏み出したのがよかった」とも。いつしかAさんの表情はとても明るく、自信に満ちた顔になっていました。

コミュニケーション麻雀の楽しみ方や、遊び方を教えてくれるボランティアです。依頼があれば、市内外問わず、出かけて教えてくれます。写真は、コミュニケーション麻雀の集まりの様子です。

推進目標　3　気軽に参加できる地域づくりの充実

【現状と課題】

社協では「軽い認知症を患っている人が、気軽に立ち寄れる場所があれば…」という相談を受け、“社協まちなかカフェ”を始めました。まちなかカフェには、中高年の女性を中心に、小さな子を連れたお母さんや、障がいのある人まで様々な人がつどい、楽しんでいます。最近では車に乗って会場にやって来る方も増え、「自宅から歩いていけるところにもあったらいいな…」と、いう声も聞こえてきました。

また、住民座談会では、地域課題に対し自分たちで取り組めそうなこととして、「声掛けやコミュニケーションづくり」という意見が多くあり、具体的な実践例として“お茶会”という案が出ました。

「家族を介護している」、「家族に障がいのある人がいる」、「生活に困っている」などの、生活課題を抱えた人同士が、つどい、お互いの悩みに共感したり、励まし合う場を必要としている方もいます。そうした人々が気軽に参加し、「ここにいてもいいんだ」、「誰かに必要とされている」と実感できるような居場所が自分の住む地域には少ないという課題があります。

【取り組み内容】

1. 居場所づくりの推進

何らかの生活課題を抱えている方を対象とした、対象者別のサロンを開催し、情報交換や、ピアサポートなどを通じて、課題解決を図ります。

また、家に閉じこもりがちな人や、孤独を感じている人を対象としたサロンを開催し、地域へ出るきっかけづくりを図ります。

さらに、社会参加のきっかけづくりとして、男性でも比較的参加しやすいサロンなどを開催し、自身の役割や、自身にあった活動を見つけるサポートをします。

2. 地域資源・社会資源の開発と活用

地域には自分の趣味や特技を持つ方が多くおられ「人材の宝庫」と言えます。そうした方々の役割を見出し、地域や社会貢献に役立てるきっかけづくりをサポートします。

3. 地域支援・団体支援の充実

「住み慣れた地域で、気軽に立ち寄れるサロンを開催してみたい」という声や、「こんなサロンがあれば…」という声に対し、地域住民と共に考えサロン開催に向けてサポートします。

キラリ事例～社協まちなかカフェ～

住民の居場所づくりを目的に、社協まちなかカフェを開催しています。社協まちなかカフェでは、民生委員を経験された方がふれあい福祉相談員として常駐し、開催時間中、住民の困りごとや悩み、誰かとゆっくり話がしたいという人の話に耳を傾け、必要があれば関係機関につなぐことを行っています。また、午前中は地域住民が先生役となり、おりがみや歌声喫茶、健康についての講話など、参加者に役立つ体験時間を設け、午後からはゆっくりとおしゃべりができるお茶のみタイムとなっています。いつ来てもいつ帰っても、またどなたでも参加できます。

↑まちなかカフェでクリスマス会をしました。写真はプレゼント交換の後、みんなでどんなプレゼントが当たったか紹介しあっているところです。

推進目標　4　一人ひとりを支える相談・生活支援の充実

【現状と課題】

人口の減少、少子・高齢社会を迎え、ますます核家族化が進む中、単身世帯や高齢者のみの世帯、一人親世帯がさらに増えていますが、近隣関係の希薄化も進み孤立感、介護や育児の悩みなど生活課題を抱える世帯が多くなっています。また、長引く景気低迷と日常生活の困りごとが複雑に重なり生活に困窮する世帯も増えています。さらには、障がい者や認知症の方々も増えています。

また、震災からの復興へ向け、被災者の生活再建が進む中で、未だに今後の見通しも立たず、仮設住宅等で不自由な生活を余儀なくされている方もいます。

そうした世帯の方々が生活課題を解決し、安定した生活や自立した生活が営めるよう支援体制を確立することが課題となっています。

【取り組み内容】

1. 相談機能の充実

情報交換会を開催するなど他相談機関及び相談員同士の関係や連携を強化するとともに、各種制度と連動することにより相談機能を充実・強化します。

2. 生活困窮世帯への自立生活支援の充実

日常生活の困りごとや経済状況の悪化などで生活に困窮する世帯の方が、問題解決の糸口を探り、安定した生活が維持できるよう関係機関と連携した支援体制を構築し、相談に対しきめ細かな対応をするとともに他機関や本会の各種支援事業・制度を活用し生活支援を行います。

3. 高齢者や障がい者がいる世帯への生活支援の充実

高齢者や障がいのある方とその世帯に対し、安心した生活が地域で送れるよう、権利擁護の推進を図りながら、地域住民と協力し、見守り活動や交流会、サポート事業などを通した生活支援を行います。

4. 被災者への生活支援の充実

被災者の生活再建が進む中で、地域との交流を持ち安心した生活が取り戻せるよう、見守り活動やサポート事業を通して生活支援やコミュニティー支援を行います。

また、今後の見通しも立たず地域から孤立する世帯や生活困窮の世帯に対し、自立した生活が送れるよう、地域の民生委員や関係機関と連携し、相談支援などの充実を図ります。

キラリ事例～ふれあい福祉相談員～

「こんにちは・・・」「あら、元気だった？」ある日の社協まちなかカフェ。少し遠慮気味な挨拶に対して、ふれあい福祉相談員の明るい声が返ってきます。

社協まちなかカフェでは、一日を通して“ふれあい福祉相談員”が常駐しています。ふれあい福祉相談員は、みなさん民生委員をされた経験のある方たちで、普段はiプラザ内の相談室で様々な相談を受けています。

「相談室で相談を待っているだけでなく、外へ出向いて住民さんの声を聴いていこう！」と、社協まちなかカフェの開始と同時に、ふれあい福祉相談員の出張相談が始まりました。

ふれあい福祉相談員さんのもとには、なんでもない日常の話から、家族に話すこともためらわれる悩みまで、様々な相談が寄せられます。そしてその都度、ふれあい福祉相談員は相談者の声に耳を傾けます。「また来月ね～！」と、この日も、知識と経験豊富なふれあい福祉相談員に見送られ、清々しい顔で会場をあとにする住民さん。ふれあい福祉相談員は、住民さんの声をじっくりと聴いてくれる心強い存在です。

推進目標　5　地域福祉を推進する連携・協働の充実

【現状と課題】

震災を契機に被災者支援においては、NPO団体など様々な団体が連携・協働して支援にあたる機会が増えてきていますが、地域においては、そうした連携や協働による地域福祉活動はまだまだ少ない状況で、当事者団体やボランティア団体などが主体的に地域福祉活動を行っているのが現状です。

地域をより良いものとしていくためには、地域住民をはじめ様々な団体が互いに協力し合い福祉を高めていくことが何よりも大切です。

しかし、地域福祉活動を行う人達が一堂に集まって話し合う機会も少なく、相互理解が深まらず連携や協働が進まないことが課題となっています。

【取り組み内容】

1. 連携・協働の関係づくり

地域住民をはじめ関係機関や各種団体などの相互理解を深めるため情報交換会や研修会、催しなど様々な交流の機会を設け、互いに協力し合い福祉を高めていくことの大切さを共有し、連携・協働による地域福祉を推進するための関係づくりに努めます。

2. 連携・協働による地域福祉の推進

町内会を単位とした住民座談会や関係団体などの懇談会を開催し、地域課題の共有化を図るとともに、課題解決に向けて共に考え、共に取り組めるような関係づくりに努めます。

また、町内会連携地域福祉活動モデル事業の実施や、介護保険制度改正に伴う総合事業において社協の役割を検討し、小地域における連携・協働による地域福祉推進に取り組みます。

3. 共同募金委員会・老人クラブ連合会との連携・協働の推進

岩沼市共同募金委員会との連携を強化し、地域福祉活動を進めるための財源の確保に努めるとともに連携や協働の事業が推進されるよう支援に努めます。

また、岩沼市老人クラブ連合会と連携し協働して地域福祉を推進します。

キラリ事例～ふれあいの広場～

震災前までは、福祉団体などが一堂に会し、盛大に行われていた「福祉のつどい」。各団体の活動紹介などみなさんへの福祉の情報発信の場として、また各団体などが相互理解を深める場として開催されていましたが、震災後は諸事情から規模を縮小した「ふれあいの広場」として開催しています。

みんなの力で住民、各団体がふれあい理解しあえる催しになれば・・・

ふれあいの広場　会場風景

推進目標　6　福祉意識を高め地域活動を促す情報発信の充実

【現状と課題】

広報活動の一環として、社協では①社協だより（岩沼市内全戸配布）を年に4回、市の広報と一緒に配布　②ホームページの公開　③福祉員の方々を通じボランティアだよりを月に1回発行し、地域で回覧　④被災者支援の一環として復興の状況を伝えるスマイルロードを年8回発行しています。

中でも、社協だよりでは、社協の活動をみなさんにお伝えできるよう、各事業所の活動報告、講座のお知らせ、ボランティアの案内などを掲載しています。

しかし、アンケート結果からもわかるように、社協の認知度はまだまだ低いといえます。

社協の活動は、地域福祉活動そのものです。地域福祉を理解してもらうためには、社協の活動や地域における福祉活動を理解してもらうことが不可欠です。

そのためにも、今よりもいっそう地域の福祉情報を伝えるための広報活動が必要です。小さな子供から高齢の方まで、わかりやすい内容となるように、努力をしていく必要があります。

【取り組み内容】

さまざまなニーズにこたえられるように、また、みなさんに地域福祉を身近に感じてもらえるような情報を発信するとともに、情報を活用してもらえることを目指します。

1. 広報の見直しを図る

社協だよりやボランティアだよりにおいて、必要な情報を必要な時に届けられるように取り組みます。特に、講座の案内やボランティア募集の記事などのタイムリーな情報提供に力を入れていきます。

また、社協ってどんなところ？に答えられるように、社協で取り組んでいる活動や、社協と地域がどうつながりかかわりあっているのかをより詳しくお伝えいたします。

2. ホームページの内容充実を図る

ホームページの更新の頻度をあげるとともに、ボランティアだよりもホームページで見ることができるようにし、タイムリーな情報発信に取り組みます。また、ホームページのメールフォームなどを活用し、みなさんの意見が社協に届くように工夫します。

3. 地域福祉活動計画概要版の作成

みなさんが活動計画を手に取り理解しやすいように、地域福祉活動計画概要版を作成し周知するよう取り組みます。また、福祉教育にも活用できるよう、児童生徒向けの地域福祉活動計画概要版を作成します。

キラリ事例～ボランティアだより～

ボランティアだよりには、社協の活動報告、ボランティアの募集だけではなく、ボランティア団体の活動報告も掲載されています。 今後も全戸配布の社協だよりと、地域で回覧のボランティアだよりを連動させて、ボランティア活動を広めるお手伝いをしていきます！！

～私たちの活動も載っています！～

ボランティアだよりに私たちごみゼロ岩沼の活動を掲載しています。おかげで、活動に賛同してくれる方が増えました！

推進目標 7 地域を支えるための基盤強化

【現状と課題】

社協運営の強化には社協会員に多くの市民が加入していただくことが不可欠ですが、今回のアンケート結果では事業活動の理解度が低く、より一層社協活動を理解していただく工夫と努力が必要であり、地域を支える基盤づくりが自主財源確保の要と考えられます。

また、事業拡大に伴い、その事業形態や職種が多様化するなか、職員一人ひとりが社協職員としての価値観や基本的な考えを共有することが難しくなってきています。今一度地域福祉の推進を図ることを目的とした価値観の共有を図る取り組みが必要とされています。

住民から信頼される社協を目指し、これらの課題を計画的継続的に改善できるよう、地域福祉活動計画の進行管理を定期的に行っていくことも課題となっています。

【取り組み内容】

1. 自主財源の確保

住民の理解による社協会員（普通会員・団体会員・賛助会員）への加入促進を積極的に呼びかけ、住民が社協活動へ参画していただくよう取り組みます。

また、介護保険部門において介護保険制度の動向を注視しながら、利用者の満足度を高めるとともに、安定的な運営の維持に努めます。

2. 役職員の価値観の共有化

役職員研修・職員内部研修などを通して、役職員同士の意識統一と組織としての機能強化・連携強化を積極的に図ります。

また、地域福祉推進の担い手としてコミュニティーソーシャルワーカー及びボランティアコーディネーターの配置、地域包括ケアシステムに対する社協の役割などを検討し、時代にあった福祉課題に対応できるよう組織体制の強化と事業評価に取り組みます。

3. 地域福祉活動計画の進行管理

活動計画推進にあたっては、社協はもとより、関係者・団体・機関・行政などが関わることが必要であるため、次期活動計画策定に向けた評価・見直しを踏まえ、適切な進行管理に努めます。

また、住民の意見を聞く場として策定にあたり住民座談会を実施しましたが、その時々の福祉課題の把握も踏まえた住民座談会の継続的な実施に取り組みます。

キラリ事例～住民座談会～

計画策定にあたり、直接地域の声を聞きたいという思いで2つの地域において座談会を実施しました。
岩沼市社協では初めての取り組みであり、担当職員もドキドキでしたが、今その地域でどんな福祉課題があるのかを参加された方々で共有することができ、「これからも開催して欲しい」と嬉しい声もいただきました。 みなさんの地域でも一人ひとりの声を直接聞いて、これからの福祉について考えてみませんか。

中央一丁目で開催した時の様子。
「あいさつって大切だよね」普段は聞けない一人ひとりの声を聞くことができました。

○事業一覧表

推進目標・事業名		方向性			備考
		見直し	継続	強化	
1 地域も関わりあえる福祉学習の充実					
（ 1 ）	福祉教育実践普及校の指定・研究会			◎	
（ 2 ）	福祉作文の募集		○		
（ 3 ）	福祉（体験）学習の支援			◎	
（ 4 ）	文化伝承事業（しめ縄づくり）		○		
（ 5 ）	小学生のためのボランティア体験			◎	
2 地域を支えるボランティア育成と活動支援の充実					
（ 6 ）	ボランティア養成講座			◎	補助事業
（ 7 ）	ボランティア活動支援事業			◎	
（ 8 ）	ボランティア保険加入事務		○		
（ 9 ）	ボランティアだより発行			◎	補助事業
3 気軽に参加できる地域づくりの充実					
（ 10 ）	市民福祉講座		○		
（ 11 ）	社協まちなかカフェ		○		
（ 12 ）	コミュニケーション麻雀		○		
（ 13 ）	地域サロン支援			◎	
（ 14 ）	ボランティア団体等活動助成事業		○		
（ 15 ）	障がい者サロン		○		受託事業
（ 16 ）	在宅介護者サロン		○		
4 一人ひとりを支える相談・生活支援の充実					
（ 17 ）	障がい者新成人記念品贈呈事業		○		
（ 18 ）	ひとり暮らし高齢者会食のつどい			◎	補助事業
（ 19 ）	ひとり暮らし高齢者配食サービス	△			補助事業
（ 20 ）	高齢者夫婦世帯介護教室		○		補助事業
（ 21 ）	在宅介護者リフレッシュ事業		○		補助事業
（ 22 ）	在宅介護者見舞品贈呈事業		○		
（ 23 ）	愛の福祉短期貸付事業		○		
（ 24 ）	福祉機器無料貸出事業		○		
（ 25 ）	入学祝い金・修学旅行支度金・ランドセル贈呈事業	△			
（ 26 ）	生活困窮者自立相談支援事業		○		受託事業
（ 27 ）	生活福祉資金貸付事業	△			受託事業
（ 28 ）	善意銀行	△			
（ 29 ）	ふれあい福祉相談事業		○		
（ 30 ）	復興支援センター			◎	受託事業
（ 31 ）	日常生活自立支援事業（まもりーぶ）		○		受託事業
（ 32 ）	軽度生活支援事業	△			受託事業
（ 33 ）	生きがいデイサービス事業	△			受託事業
5 地域福祉を推進する連携・協働の充実					
（ 34 ）	ふれあいの広場		○		
（ 35 ）	法人化45周年記念岩沼市社会福祉大会（H30）			新規	
（ 36 ）	団体支援（共同募金委員会・老人クラブ連合会）		○		受託事業
（ 37 ）	町内会連携地域福祉活動モデル事業			新規	
（ 38 ）	介護保険制度改正に伴う新しい総合事業			新規	
6 福祉意識を高め地域活動を促す情報発信の充実					
（ 39 ）	社協だより発行		○		
（ 40 ）	ホームページ運営		○		
（ 41 ）	地域福祉活動計画概要版の作成			新規	
7 地域を支えるための基盤強化					
（ 42 ）	地域福祉活動計画の進行管理			新規	
（ 43 ）	経営・財政基盤の強化		○		
（ 44 ）	役職員研修の充実		○		
（ 45 ）	デイサービスセンターさとのもり		○		指定管理
（ 46 ）	居宅介護支援事業		○		
（ 47 ）	地域包括支援センター		○		受託事業

資　料　編

1　用語解説

社会福祉協議会

社会福祉法に基づき地域福祉の推進を図ることを目的とした民間団体です。

地域の人や関係機関・団体・行政などと連携・協働し、誰もが安心して暮らせる福祉のまちを目指し様々な活動を行っています。

省略して「社協（しゃきょう）」とも呼ばれています。

地域福祉

それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。（全国社会福祉協議会ＨＰより引用）

コミュニティーソーシャルワーカー

身近な地域で問題を抱える高齢者、障がい者、ひとり親家庭など、支援が必要な人たちに対する「見守り・課題の発見・相談・サービスや専門機関へのつなぎ」などの支援を行う役割を担った専門職のこと。（貝塚市ＨＰより引用）

地域包括ケアシステム

高齢者の方や障がいをもった方などすべての地域住民が住み慣れた自宅や地域で安心して暮らし続けるため、日常生活圏域内において、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく、一体的に提供される仕組みのこと。（大阪府ＨＰより引用）

社会資源

日常生活上の人々が抱えている様々な問題を解決するための福祉サービスの総称です。フォーマル（制度化されているサービス）な社会資源として、公的機関、社会福祉協議会、福祉施設、病院などがあげられます。一方、インフォーマル（制度化されていないサービス）な社会資源として、家族、友人近隣住民、ボランティアなどがあげられます。

地域資源

自然資源のほか、特定の地域に存在する特徴的なもので活用可能な物の総称です。家族、友人近隣住民、支援団体（ボランティアや地域の団体・組織など）、福祉施設、企業などの人的資源なども含まれます。

サロン

お茶会やレクリエーションをしたり、悩みを相談し合ったり、同じ地域で暮らす人同士のふれあいを通して、仲間づくりや生きがいの輪を広げるための、誰もが気軽に参加できる地域の「憩いの場」になりうる場所です。主に住民ボランティアなどの地域の人が協力しながら実施しています。

ピアサポート

同じ悩みや症状などの問題を抱えている、同じ立場にある当事者同士が、お互いの経験・体験を基に語り合い、問題の解明（回復）に向けてサポートし合う相互支援の取り組みです。

２　アンケート結果（主なところを抜粋）

Ⅰ　【小学６年生・中学３年生】　回答数　小学生１２５・中学生１２５
（各学校の１クラスずつに回答をもらいました。）

１．あなた自身のことについてお聞きします

問１～７
回答者について聞くことにより、アンケートの統計に反映します。

各学校の１クラスずつに回答をもらいました。
小・中学生ともに、ボランティア活動をしたことがあるとの答えは３割程度でした。小学生は親に言われて、中学生は自分から進んでの回答が多くなっています。また、小・中学生共に活動をしたことがないと答えた児童生徒の半数は、機会がないからと答えており、活動の機会を作ることが求められます。

問２　あなたの通学して（住んで）いる学校（学区）はどこですか。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	岩沼小学校	36	28.8	31	24.8
2	玉浦小学校	22	17.6	31	24.8
3	岩沼南小学校	36	28.8	26	20.8
4	岩沼西小学校	31	24.8	37	29.6
	合計	125		125	

問４　あなたはボランティア活動をしたことがありますか。
また、主にどんなことをしましたか。（家でのお手伝いは含みません。）

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	ある	39	31.2	38	30.4
2	ない	86	68.8	87	69.6
	合計	125		125	

活動の内容（植樹、ゴミ拾い、清掃、募金、配食、泥かき、雪かき等）

２．ご近所についてお聞きします

問８～１０
地域のことについて聞くことにより、実情を把握します。

小・中学生共に９割を超える児童生徒が近所の大人に声をかけてもらっているようです。参加できる行事は運動会が共に多く、小学生はラジオ体操も多くなっています。また、登

下校の際危険と感じたことのある児童生徒は３割弱いるようです。
　多くの小・中学生は近所との交流が多く認められています。安全面での見守り活動の必要性も感じられます。

問８　あなたの近所の大人は、あいさつや話をしてくれますか。１つ選んで下さい。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	会えば必ず声をかけてくれる	44	35.5	27	22.0
2	ときどき声をかけてくれる	69	55.6	84	68.3
3	ほとんど声をかけてくれない	9	7.3	10	8.1
4	まったく声をかけてくれない	2	1.6	2	1.6
	合計	124		123	

3．岩沼市についてお聞きします

問１１～１３
岩沼市について聞くことにより、実情を把握します。

　岩沼市に住みたい、帰ってきたいと答えた児童生徒は小学生が９割弱、中学生は２割減って７割弱でした。理由として小学生は家族がいるからが多く、中学生になると岩沼市が好きだからが増えています。

問１１　あなたは、今後も岩沼市に住みたいと思いますか。１つ選んで下さい。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	一度は岩沼市から出たいが将来は帰ってきたい	89	71.2	68	54.8
2	ずっと住みたい	18	14.4	16	12.9
3	住みたくない	12	9.6	25	20.2
4	その他	6	4.8	15	12.1
	合計	125		124	

4．あなたが考える福祉についてお聞きします

問１４～１９
福祉の事を聞くことにより、実情を把握します。

　福祉の言葉のイメージは小・中学生共に介護、高齢者、障がい者に回答が集中しています。高齢者、障がい者の困っている場面に出会ったことがあるかでは、小学生が２割、中学生が３割あると回答し、ほとんどの児童生徒が手伝いをしています。また、ないと回答した児童生徒の８割も手助けをすると回答しています。
　地域の福祉を充実するための問いには、小・中学生共に交流や助け合い、福祉への関心

等まんべんなく回答が出ており、意識の高さが窺えます。
　２０年後の生活では、小・中学生共に家族、友人、家に回答が集中しており、身近なところでの幸せを求めていることが窺えます。
　命の大切さの問では小・中学生共にほとんどの児童生徒が自分や他人の命は大切と答えていますが、中学生になるとその割合が減るのが気になります。

問１４　あなたは「福祉」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか。主なもの３つまで○をつけて下さい。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	幸せ	14	11.2	12	9.6
2	助け合い	59	47.2	55	44.0
3	安心	15	12.0	20	16.0
4	介護	92	73.6	83	66.4
5	高齢者	67	53.6	74	59.2
6	障がい者	72	57.6	72	57.6
7	ボランティア	44	35.2	44	35.2
8	災害	2	1.6	4	3.2
9	その他	1	0.8	0	0.0
	基本人数	125		125	

問１７　あなたの住む地域の福祉をもっと良くするためには、どんなことが必要だと思いますか。３つまで選んで下さい。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	地域に住む人が集まって交流する時間を増やす	47	37.6	49	39.2
2	お年寄りや子どもなどいろいろな人が集まって交流する時間を増やす	71	56.8	50	40.0
3	地域に住む人が協力し、助け合う活動の時間を増やす	61	48.8	64	51.2
4	地域に住む人が生活していて困っていることをもっと知る	63	50.4	47	37.6
5	地域に住む人が福祉に関心を持つ	59	47.2	54	43.2
6	特に必要ない	7	5.6	12	9.6
7	その他	2	1.6	1	0.8
	基本人数	125		125	

問１９　あなたは命の大切さについてどのように思いますか。３つ選んで下さい。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	一人ひとりの命はかけがえのないものだと思う	112	89.6	93	74.4
2	どんな理由でも自殺をしてはいけないと思う	64	51.2	50	40.0
3	どんな理由でも人を殺してはいけないと思う	106	84.8	79	63.2
4	どんな理由でも人に暴力をふるってはいけないと思う	18	14.4	22	17.6
5	命を大切だとは思わない	1	0.8	3	2.4
6	理由があれば人を傷つけてもいいと思う	0	0.0	8	6.4
7	弱い立場の人の命を守ることだと思う	17	13.6	33	26.4
8	相手のことを思いやる心をもつことだと思う	51	40.8	55	44.0
9	よくわからない	4	3.2	11	8.8
10	その他	0	0.0	1	0.8
	基本人数	125		125	

5．岩沼市社会福祉協議会についてお聞きします

問２０～２７

岩沼市社協について聞くことにより、社協の認知度を知り今後の計画に繋げます。

社会福祉協議会を知っているかの問いでは知っている、名前は聞いたことがあると答えた児童生徒は、小学生は７割弱、中学生は３割強となっており、中学生になると低い割合となっています。

社協の事業についての問は小・中学生共に認知度のあるものから、ないものまで様々でした。

しかし、参加については、災害時のボランティア活動と募金活動以外は半分を超えない結果となりました。

社協の認知度を高める取り組みが必要だと感じられます。

問２０　あなたは岩沼市社会福祉協議会を知っていますか。１つ選んで下さい。

		小学生		中学生	
番号	項目	人数	%	人数	%
1	知っている	13	10.4	14	11.3
2	名前は聞いたことがある	70	56.0	29	23.4
3	知らない	42	33.6	81	65.3
4	その他	0	0.0	0	0.0
	合計	125		124	

Ⅱ　【一般】　回答数　３１３

１．あなた自身のことについてお聞きします

問１～７

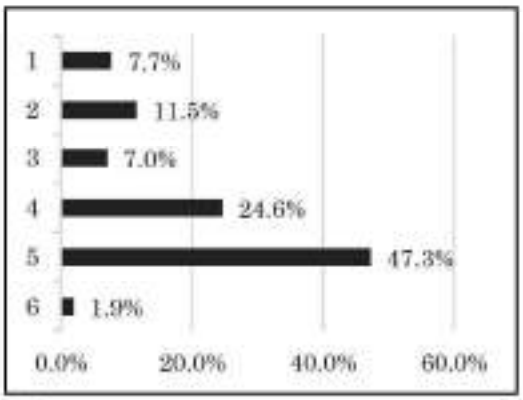
回答者について聞くことにより、アンケートの統計に反映します。

回答は５０代、６０代の方から多くいただきました。２０代から４０代の子育て世代の方は関心がないのか、回答をいただいた方は少なかったです。そのため祖父、祖母と同居の方はいませんでした。

ボランティア活動をしたことがある方は３割弱で、ある方はいろいろな活動をしているようです。始めるきっかけとしては、自発的に始めた方が多く、次に誘われての回答が多くなりました。また、ないと答えた方の半数以上は機会がないからと回答しており、活動の機会をつくることが必要だと思われます。

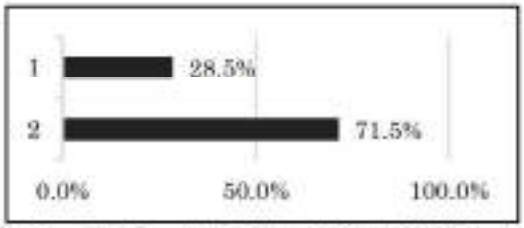
問２　あなたの現在の年代を教えて下さい。

番号	項目	人数	%
1	２０代	24	7.7
2	３０代	36	11.5
3	４０代	22	7.0
4	５０代	77	24.6
5	６０代	148	47.3
6	７０代	6	1.9
	合計	313	



問５　あなたはボランティア活動をしたことがありますか。
また、主にどんなことをしましたか。

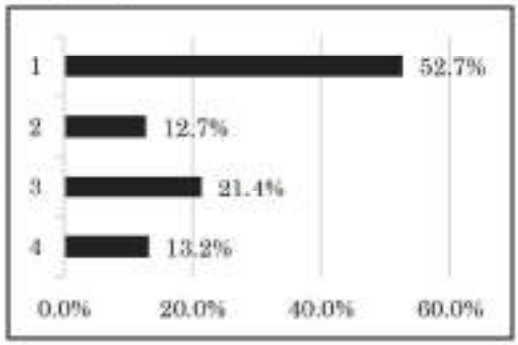
番号	項目	人数	%
1	ある	89	28.5
2	ない	223	71.5
	合計	312	



主な活動（植樹、ゴミ拾い、清掃、雪かき、傾聴、子育て、スポーツ指導、学習指導等）

問７　問５で「ない」と答えた人に聞きます。それはなぜですか。
１つ選んで下さい。また、してみたい活動はなんですか。

番号	項目	人数	%
1	機会がないから	116	52.7
2	興味がないから	28	12.7
3	何をすればいいかわからないから	47	21.4
4	その他	29	13.2
	合計	220	



してみたい活動（スポーツ指導、清掃、復興支援、ゴミ拾い、お年寄りの介護等）

2．ご近所についてお聞きします

問8～9

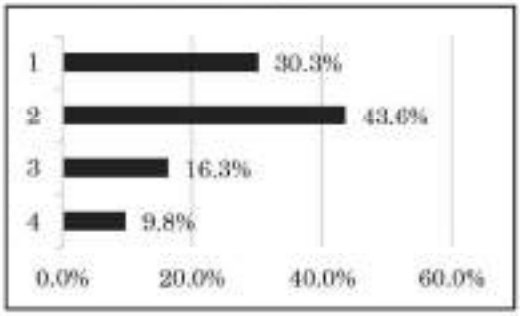
地域のことについて聞くことにより、実情を把握します。

７割以上の方が近所の子どもに挨拶等をしていると答えており、声をかける年代は５０代以上の方が多い傾向にあります。

参加できる行事については、お祭りや運動会など単発の行事となっており、定期的に開催される地域活動が少ないように思われます。

問8　あなたは近所の子どもに、挨拶や話をしますか。１つ選んで下さい。

番号	項目	人数	%
1	会えば必ず声をかける	93	30.3
2	ときどき声をかける	134	43.6
3	ほとんど声をかけない	50	16.3
4	まったく声をかけない	30	9.8
	合計	307	



3．岩沼市についてお聞きします

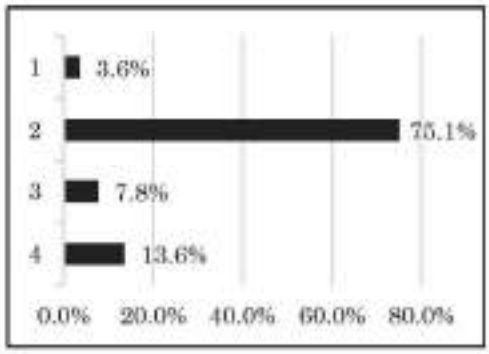
問１０～１２

岩沼市について聞くことにより、実情を把握します。

岩沼市にずっと住みたい、将来は帰ってきたいと考えている方が８割近くおり、その半分の方が、家族がいるからと回答していることから、家族の大切さが窺えます。また、住みたくないの回答には、震災による避難で住んでいるので、いずれは地元に帰りたいとの回答もありました。

問１０　あなたは、今後も岩沼市に住みたいと思いますか。１つ選んで下さい。

番号	項目	人数	%
1	今後は岩沼市から出たいが将来は帰ってきたい	11	3.6
2	ずっと住みたい	232	75.1
3	住みたくない	24	7.8
4	その他	42	13.6
	合計	309	



4．あなたが考える福祉についてお聞きします

問１３～２３

福祉の事や社協の事、福祉の情報をどこから得ているか、相談先やイメージを聞くことにより、今後の情報発信の際どこに力を入れて周知するのか、そして対象をどの年代にするかなどの媒体を考えることが出来る。

福祉の言葉のイメージは、助け合い、介護、高齢者、障がい者に回答が集中しています。「福祉とは」の意味である幸せは、ほとんど回答がありませんでした。

高齢者や障がいのある人が困っている場面に出会ったことがあるかの問いには、半分弱の方があると答えており、相手の方に合わせた対応をされているようでした。また、ないと答えた方も８割以上の方は手助けすると回答しています。しかし、中には対応に困る方もいるようです。

地域の福祉を充実させるためにはの問いには、交流の機会を増やすや相手の事をもっと知るなど、まんべんなく回答が出ています。

２０年後の生活の幸せを考えた時の問では、地元の自分の家で家族と過ごしたいとの思いが読み取れます。

岩沼市社協の認知度の問では、８割弱の方に認知いただいておりますが、実際にどんな活動をしているかはわからない方が多く、さらなるＰＲが必要だと思われます。

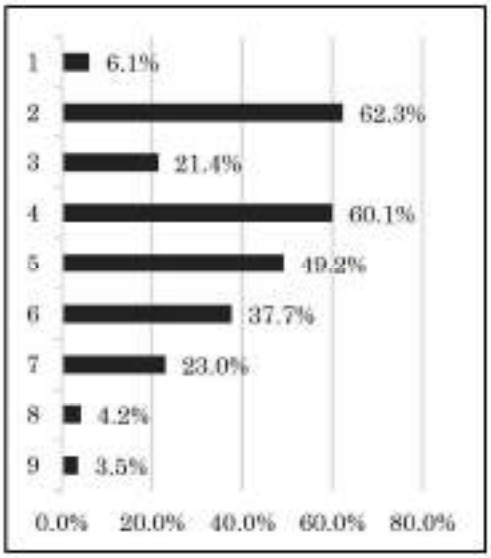
福祉の情報源としては、岩沼市広報と答えた方が８割弱と一番多く、ついで社協だよりとなっています。全戸配布の広報紙なので、より多くの方に読んでいただく工夫が必要だと思われます。また、若い世代ほどテレビやインターネットと答える役割が多く、ホームページ等の活用も必要になると思われます。さらにはまた、対人による情報入手はすべて低い割合となっています。

生活上の悩みの相談相手は家族等が一番多く、８割弱となっています。次いで行政等の相談窓口となっており、近親者を相談相手に選んでいるのは、プライバシーの問題もあるからと思われます。

今後の福祉を支えていくのはの問いには、８割弱の方が行政、次いで社協となっており、公助に期待があると思われます。また、今後の担い手である地域住民と答えた方は４割弱で３番目でした。今後住民主体という考え方についての啓発や取り組みに課題がみられます。

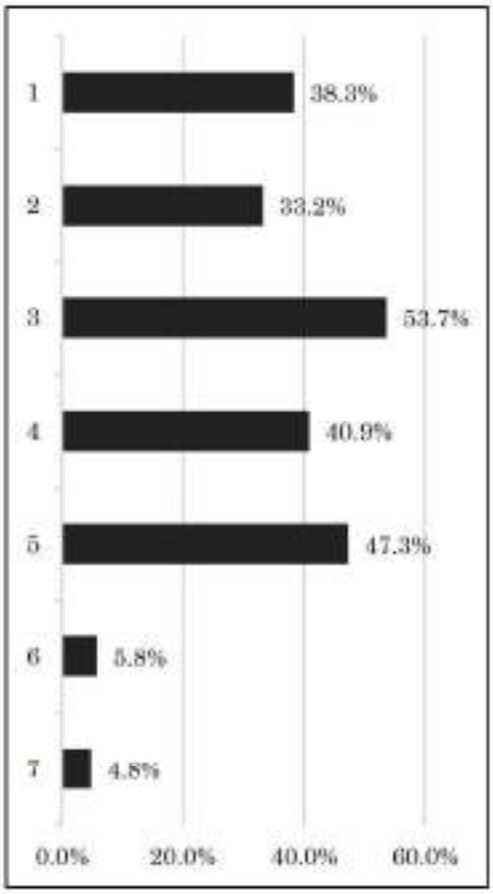
問１３　あなたは「福祉」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか。
主なもの３つまで○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	幸せ	19	6.1
2	助け合い	195	62.3
3	安心	67	21.4
4	介護	188	60.1
5	高齢者	154	49.2
6	障がい者	118	37.7
7	ボランティア	72	23.0
8	災害	13	4.2
9	その他	11	3.5
	基本人数	313	



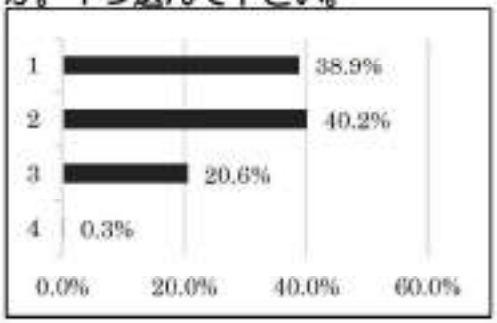
問１６　あなたの住む地域の福祉をより充実させるためには、どんなことが必要だと思いますか。３つまで選んで下さい。

番号	項目	人数	%
1	地域の住民が集まって交流する機会を増やす	120	38.3
2	お年寄りや子どもなど異なる世代が集まって交流する機会を増やす	104	33.2
3	住民同士が支え合い、助け合う活動の機会を増やす	168	53.7
4	地域に暮らす住民が生活していて困っていることをもっと知る	128	40.9
5	住民が福祉に関心を持ち、福祉のまちづくりの一員であることを意識する	148	47.3
6	特に必要ない	18	5.8
7	その他	15	4.8
	基本人数	313	



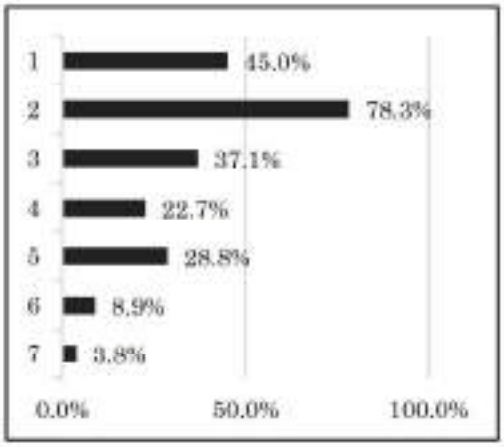
問１８　あなたは岩沼市社会福祉協議会を知っていますか。１つ選んで下さい。

番号	項目	人数	%
1	知っている	119	38.9
2	名前は聞いたことがある	123	40.2
3	知らない	63	20.6
4	その他	1	0.3
	合計	306	



問２３　あなたは、「福祉」を支えていくのは誰（どこ）だと思いますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	社会福祉協議会	141	45.0
2	市役所などの行政	245	78.3
3	地域住民	116	37.1
4	ボランティアやNPO団体	71	22.7
5	民間の福祉施設	90	28.8
6	わからない	28	8.9
7	その他	12	3.8
	基本人数	313	



5．地域活動（福祉）に対するお考えをお聞きします

問２４～２８

近所づきあいの必要性の感じ方や何を求めているのかを世代、地域別に聞くことにより、今後の地域での展開を考えることができる。

８割以上の方が近所づきあいの必要性を感じているようです。しかし、若い世代ほど深く関わりたくないと回答しており、世代によるギャップが感じられます。

また、必要性は感じているものの、行事等への参加は半数となっており、こちらも若い世代は不参加の回答をする方が多くなりました。

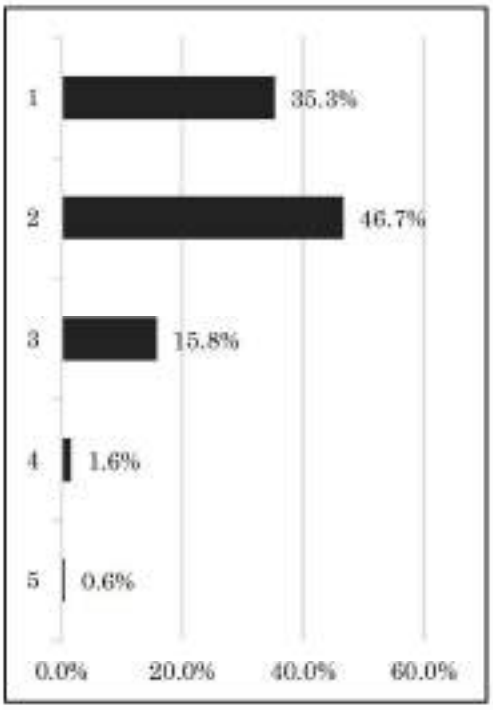
地域の協力性についても協力的、非協力的が半々の割合となりました。行事等へ参加している方は他の人も協力的と答える割合が高く、不参加の人は非協力的と答える割合が高くなっています。若い世代は地域が生活の場だけになっているため、交流等については無関心だと思われます。

ご近所に手助けをして欲しいことでは、緊急時の対応、日常的な話し相手と回答された方が多い反面、手助けは必要ないと回答した方も４人に一人いました。

地域で安心して暮らすための取り組みは、見守り体制や健康づくりなどが多く回答されています。

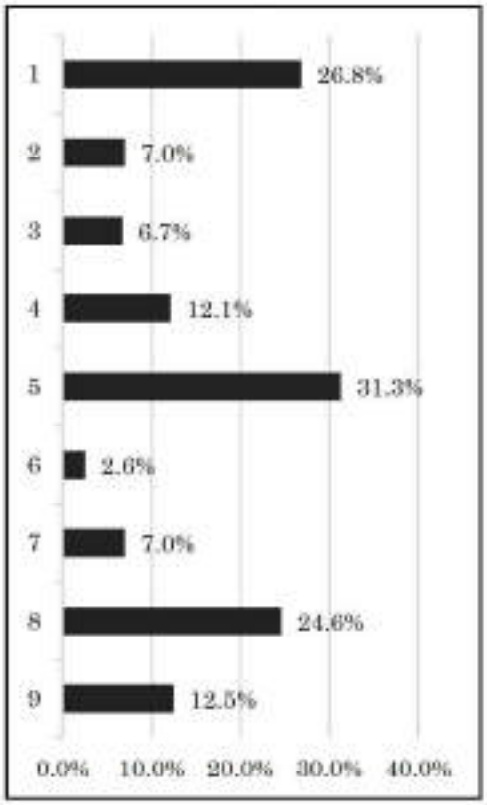
問２４　あなたは近所づきあいについてどう思いますか。
当てはまるもの１つに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	助け合って生きていくためには大切であると思う	112	35.3
2	あいさつや多少の協力は当然であり、特別なこととは思わない。	148	46.7
3	あいさつ程度はするが、深く関わりたくない	50	15.8
4	わずらわしいので、ほとんどつきあいはしたくない	5	1.6
5	その他	2	0.6
	合計	317	



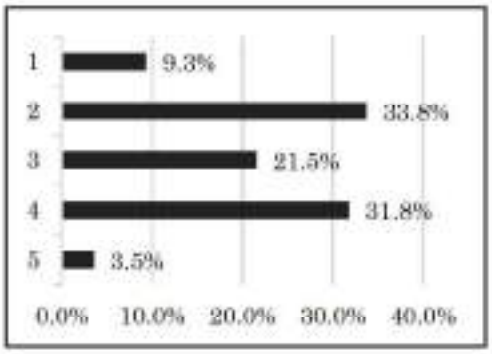
問２５　今後、近所づきあいの中で、ボランティアや近隣住民に「手助けをしてほしい」と思うことはありますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	相談ごとや話し相手	84	26.8
2	買い物や近くまでの外出などの付き添い	22	7.0
3	子どもの預かり、外遊びなどの見守り	21	6.7
4	掃除、庭の草刈りなど簡単な手伝い	38	12.1
5	病気などの緊急時の看病や、医者を呼ぶなどの手助け	98	31.3
6	家事や入浴の手助け	8	2.6
7	介護の手助け	22	7.0
8	手助けしてほしいとは思わない	77	24.6
9	その他	39	12.5
	基本人数	313	



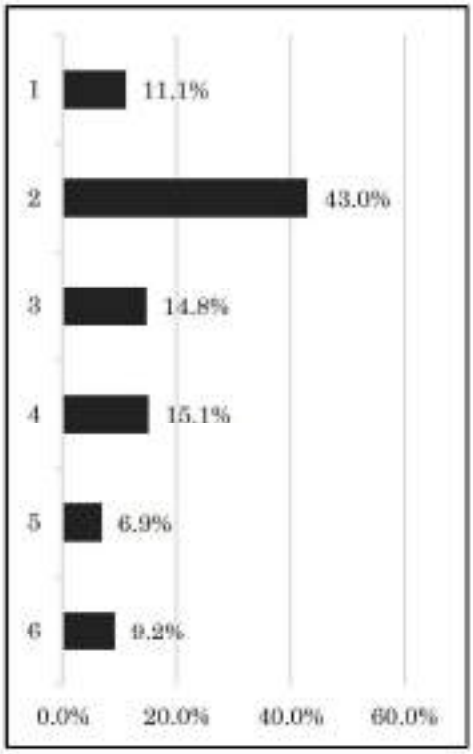
問２６　あなたは地域の行事や町内会・自治会・コミュニティ活動・こども会などの「地域活動」に参加していますか。当てはまるもの１つに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	よく参加している	29	9.3
2	ある程度参加している	105	33.8
3	あまり参加していない	67	21.5
4	参加していない	99	31.8
5	あるかどうかわからない	11	3.5
	合計	311	



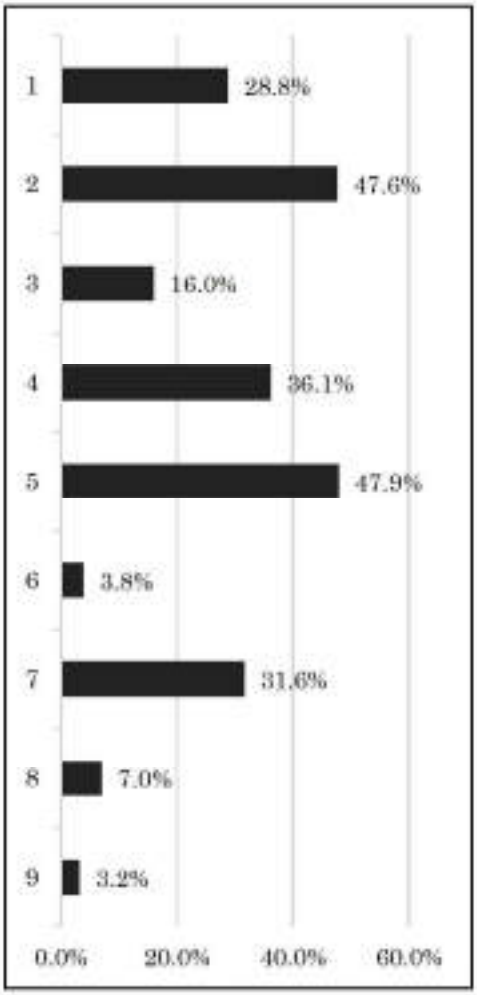
問２７　あなたは住んでいる地域についてどう感じていますか。
当てはまるもの１つに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	協力的な人が多いと思う	34	11.1
2	仕事等で無理な人もいるが、なるべく協力するよう努めていると思う	131	43.0
3	助け合いの心が薄れているように思う	45	14.8
4	自分勝手な行動や協調性に欠ける人が多くなっているように思う	46	15.1
5	建前で「見舞い」や「祝」はするが、儀礼的に行っているように感じる	21	6.9
6	その他	28	9.2
	合計	305	



問２８　あなたの住んでいる地域で安心して暮らすためには、どんなことが必要だと思いますか。主なもの３つまで○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	高齢者や子どもなど異なる世代が集まって交流する機会を増やす	90	28.8
2	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる	149	47.6
3	高齢者や障がい者のための外出支援サービス	50	16.0
4	高齢者や障がい者の社会参加・生きがいづくりの支援	113	36.1
5	健康づくり・介護予防の取り組み	150	47.9
6	地区での座談会の開催	12	3.8
7	住民が福祉に関心を持ち福祉のまちづくりの一員であることを意識する	99	31.6
8	特に必要ない	22	7.0
9	その他	10	3.2
	基本人数	313	



6．ボランティア活動についてお聞きします

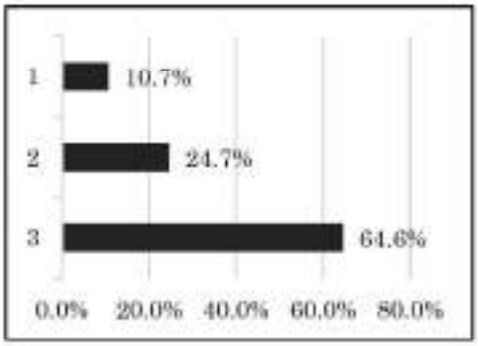
問２９～３２

ボランティア活動の経験の有無や参加のしやすさを聞くことにより、今後のボランティア活動への仕組みづくりや体制づくりを考えることが出来る。

現在も活動している方は１割程度で、過去に活動した方は３割弱でした。時間的に参加できないと回答された方が５割を超えており、情報提供や気軽に参加できる、地域でのちょっとしたボランティア活動の機会や継続して活動できる仕組みづくりの必要が感じられます。

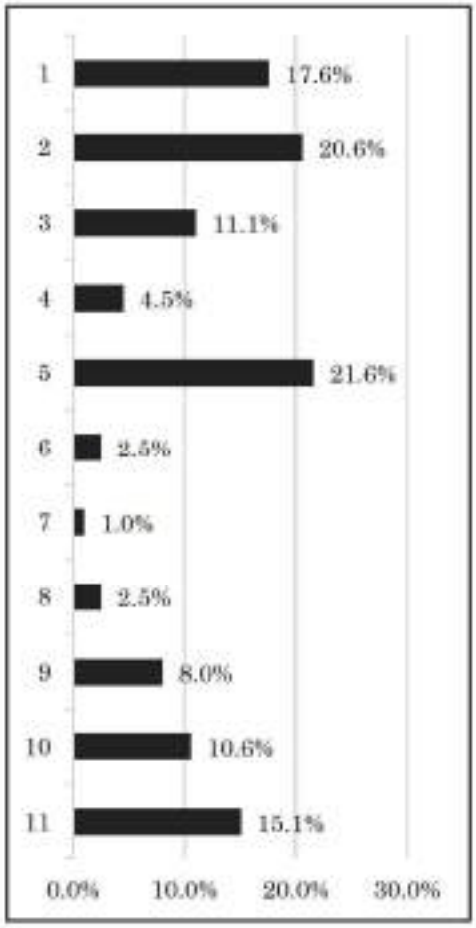
問２９　あなたのボランティア活動経験についてお答え下さい。

番号	項目	人数	%
1	経験があり、現在も活動している	33	10.7
2	過去に経験したことがあるが、現在はしていない	76	24.7
3	経験はない	199	64.6
	合計	308	



問３０　「経験はない」と答えた方にお聞きします。ボランティア活動に参加されない理由は何ですか。当てはまるもの１つに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	自分のことだけで精一杯	35	17.6
2	忙しくて参加する余裕がない	41	20.6
3	体力的に自信がない	22	11.1
4	一人で参加する勇気がない	9	4.5
5	参加するきっかけやチャンスがない	43	21.6
6	関心がない	5	2.5
7	自分がやりたい活動がない	2	1.0
8	まわりに活動している人がいない	5	2.5
9	具体的に何を行っているかわからない	16	8.
10	特に理由はない	21	10.6
11	その他	30	15.1
	合計	199	



7．高齢者についてお聞きします

問３３～３５

高齢者が地域の中で安心して生活するための大切な事や、自分でできる事を聞くことにより、今後の地域での高齢者への支援体制を考えることが出来る。

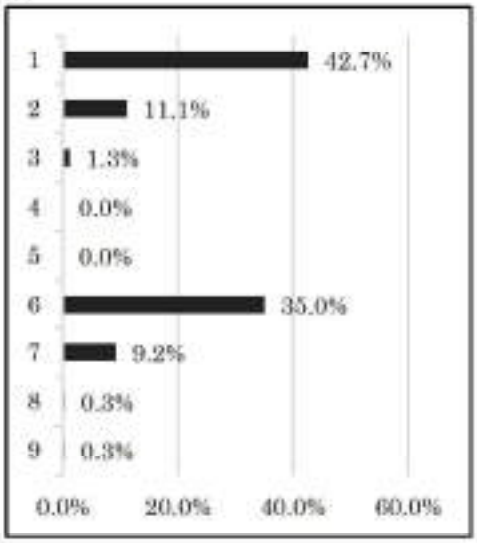
介護が必要になったときは家族に介護してもらいたいとの回答が５割を超えていますが、次いで施設やヘルパーとの回答も５割弱あり、家族に迷惑はかけたくないとの気持ちが読み取れます。

高齢者が地域で生活するのに大切なことの問いでは、心と体の健康が５割を超える回答、次いで生きがいとなっており、健康でいきいきと生活したいと考えている方が多いと読み取れます。

また、問２５で手助けをしてほしいことと、高齢者にできることの項目で日常的な支援ならできると答えた方が多くなっており、してほしい、できるの項目が合致していることから、「できる」から「する」への仕掛けが必要だと思われます。

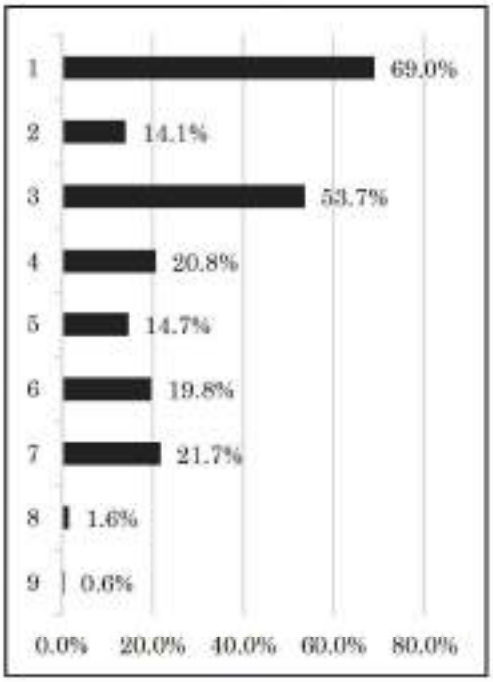
問３３　あなたに介護が必要になったとき、もっとも介護をしてほしいのは誰（どこ）ですか。当てはまるもの１つに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	配偶者	134	42.7
2	子ども	35	11.1
3	兄弟、姉妹	4	1.3
4	親戚	0	0.0
5	友人・知人	0	0.0
6	福祉施設、病院	110	35.0
7	ホームヘルパー	29	9.2
8	ボランティア	1	0.3
9	その他	1	0.3
	合計	314	



問３５　次の項目の中で、高齢者が地域の中で安心して暮らせるように、あなたにできることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	日常的なあいさつ	216	69.0
2	買い物や近くまでの外出などの付き添い	44	14.1
3	見守り、声かけ、話し相手	168	53.7
4	掃除、庭の草刈など簡単な手伝い	65	20.8
5	相談相手	46	14.7
6	高齢者が集える場所（サロン）でのお手伝い	62	19.8
7	何ができるかわからない	68	21.7
8	できることはない	5	1.6
9	その他	2	0.6
	基本人数	313	



8．子育てについてお聞きします

問３６～３９

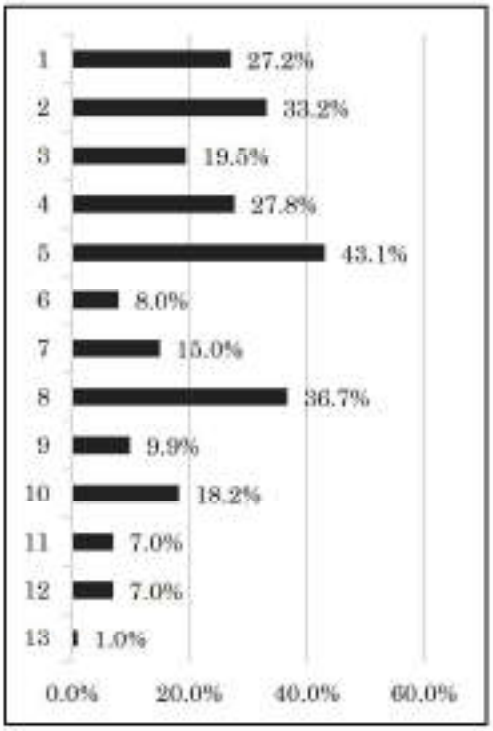
子育て中の地域での生活や悩みを聞くことにより、今後の地域での子育て世帯への支援体制を考えることが出来る。

保育所の充実が４０％強と高い数字を示しています。岩沼市での待機児童は約４０名おり、保育所の充実が望まれています。また、企業や職場の理解支援、緊急時の託児も多くなっており、ハード面の充実が求められていることが読み取れます。

また、子育て世代からの回答がほとんどなく、今回のアンケートでは読み取りが出来ませんでした。次回のアンケートでは回答がもらえるよう工夫が必要だと思われます。

問３６　子育てがしやすい地域づくりのために、大切だと思うことを
主なもの３つまで○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	遊び場の確保	85	27.2
2	緊急時の託児	104	33.2
3	経済的支援	61	19.5
4	放課後の児童支援	87	27.8
5	保育所の充実	135	43.1
6	男性の育児協力	25	8.0
7	育児に対する地域の理解	47	15.0
8	企業や職場の理解支援	115	36.7
9	一人親家庭への支援	31	9.9
10	小児医療機関の充実	57	18.2
11	子育て経験者のアドバイス	22	7.0
12	わからない	22	7.0
13	その他	3	1.0
	基本人数	313	



9．障がい者についてお聞きします

問４０～４２

障がい者が地域の中で安心して生活するための大切な事や、自分でできる事を聞くことにより、今後の地域での障がい者への支援体制を考えることが出来る。

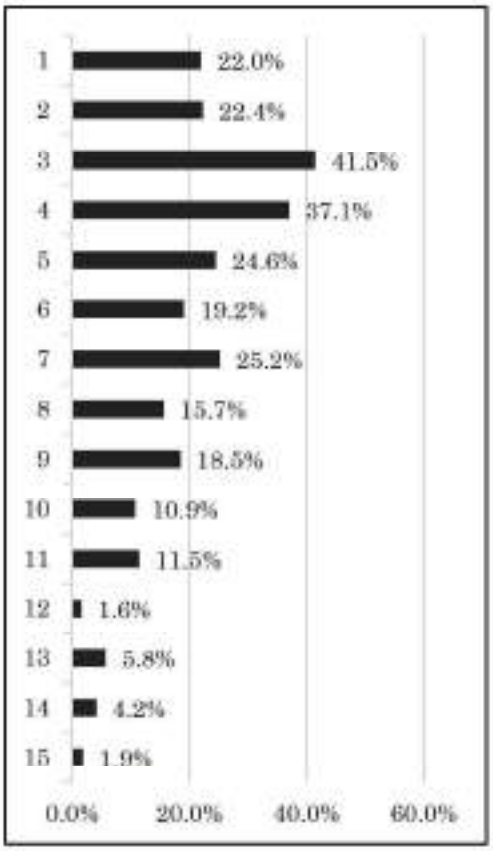
障がい者が地域で生活する上で必要なことでは地域住民の協力や理解、介護等の福祉サービスの回答が多くなっています。また、仕事の確保や経済的援助などのお金に関係する回答も多くなっています。

しかし、日常生活ではほとんど関わりがないと答えた方が6割を超えており、地域住民の協力や理解を得るためには関わりをもつ機会を設けていくことが必要だと思われます。

高齢者と同じく、日常的な支援活動ならできると答えた方が多くなっていますので、障がい者についても「できる」から「する」への仕掛けが必要だと思われます。

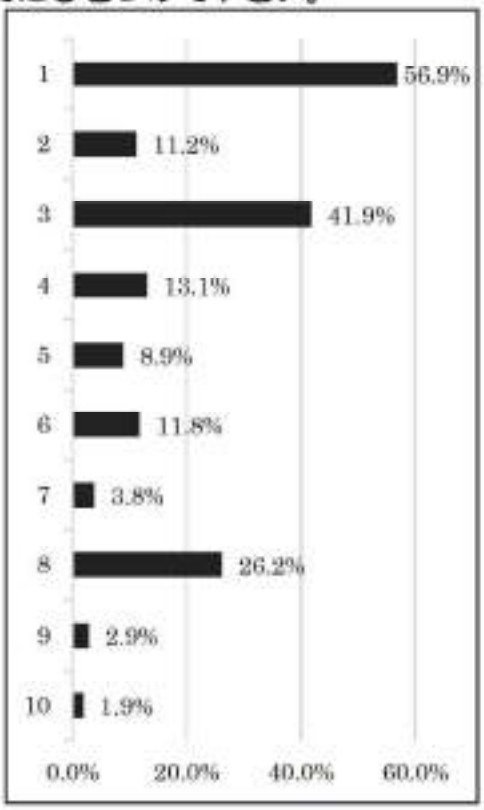
問４０　「障がい者」が地域で生活する上で、あなたが特に大切だと思うことはなんですか。主なもの３つまで○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	心と体の健康	69	22.0
2	生きがい	70	22.4
3	地域住民の協力や理解	130	41.5
4	介護等の福祉サービス	116	37.1
5	経済的援助	77	24.6
6	家族の協力	60	19.2
7	仕事の確保	79	25.2
8	バリアフリー化	49	15.7
9	相談窓口の充実	58	18.5
10	医療機関	34	10.9
11	交通手段の確保	36	11.5
12	店や商店	5	1.6
13	友人、仲間	18	5.8
14	わからない	13	4.2
15	その他	6	1.9
	基本人数	313	



問４２　次の項目の中で、「障がい者」が地域の中で安心して暮らせるように、あなたにできることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	日常的なあいさつ	178	56.9
2	買い物や近くまでの外出などの付き添い	35	11.2
3	見守り、声かけ、話し相手	131	41.9
4	掃除、庭の草刈など簡単な手伝い	41	13.1
5	相談相手	28	8.9
6	障がい者が集える場所（サロン）でのお手伝い	37	11.8
7	要約筆記、手話、点字等のボランティア活動	12	3.8
8	何ができるかわからない	82	26.2
9	できることはない	9	2.9
10	その他	6	1.9
	基本人数	313	



１０．平成２７年度から始まる新しい制度についてお聞きします

問４３～４６

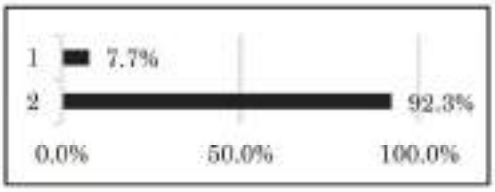
あたらしく始まる生活困窮者自立支援制度について聞くことにより、今後の支援体制を考えることが出来る。

９割以上の方が知らないと答えており、今後のＰＲ活動が必要だと思われます。また、地域で困っている方についても９割以上の方が知らない、わからないと回答しており、プライバシーの問題、地域での人間関係の希薄さが窺えます。

相談窓口についても行政が７割弱と多くなっており、公的扶助への期待が窺えます。また、対人では民生委員と答えた方が一番多く、日頃の活動の成果が見えます。

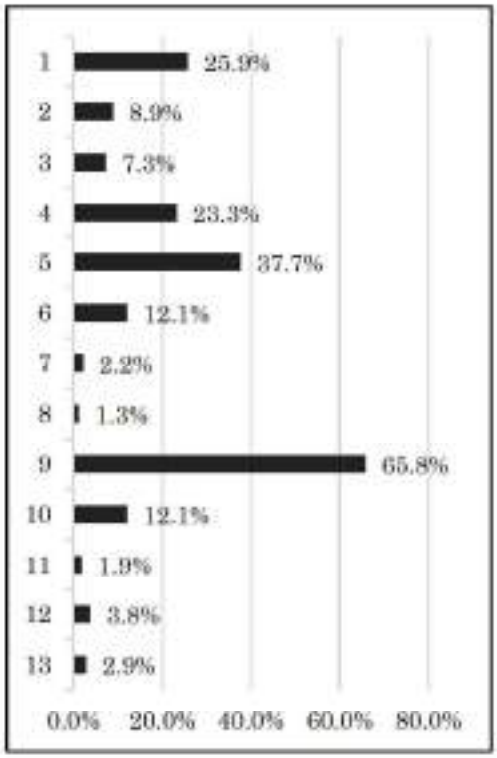
問４３　生活困窮者自立支援制度が始まることを知っていますか。

番号	項目	人数	%
1	知っている	23	7.7
2	知らない	276	92.3
	合計	299	



問４６　生活に困っている人がいたとき、どこに相談しますか。
主なもの３つまで○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	家族、親族	81	25.9
2	知人、友人	28	8.9
3	近所の人	23	7.3
4	社会福祉協議会	73	23.3
5	民生委員	118	37.7
6	福祉員	38	12.1
7	ハローワーク	7	2.2
8	保健所	4	1.3
9	行政などの相談窓口	206	65.8
10	地域包括支援センター	38	12.1
11	ケアマネジャー	6	1.9
12	相談できる人がいない	12	3.8
13	その他	9	2.9
	基本人数	313	



１１．福祉のまちづくりについてお聞きします

問４７～４８

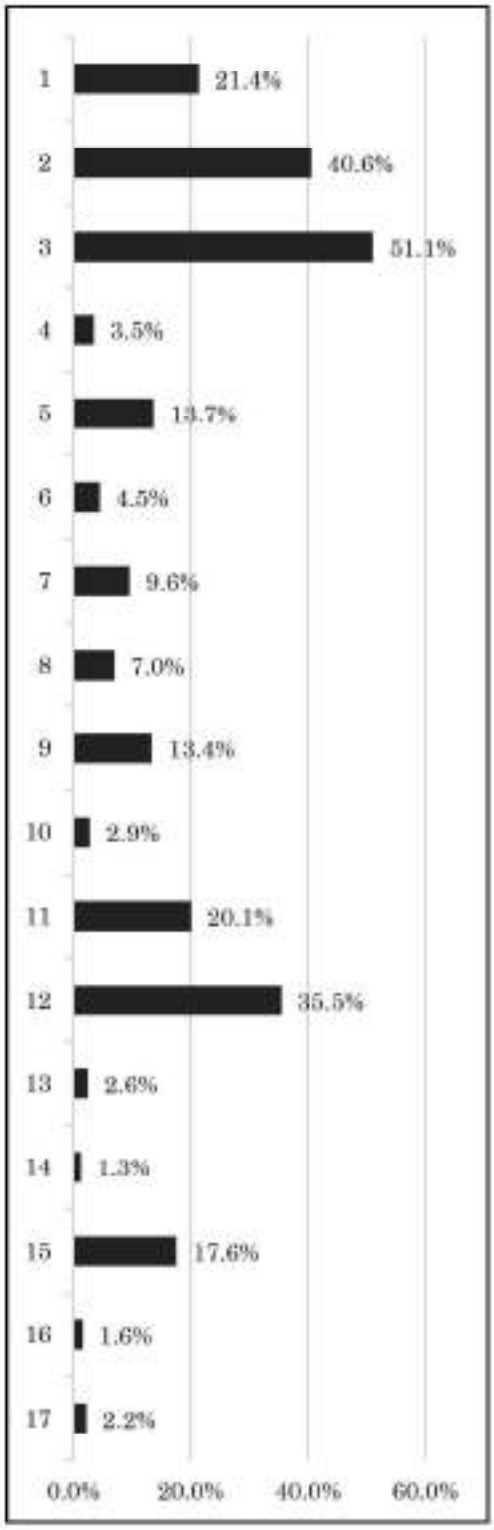
福祉のまちづくりのために取り組んでほしいことを聞くことにより、今後の福祉のまちづくりへの体制を考えることが出来る。

岩沼市広報等に相談窓口の一覧があるにも関わらず、困りごとを相談する窓口をわかりやすくしてほしいと回答した方が半数を超えました。また、緊急時の連絡・対応も４０％を超えており、対応に期待が寄せられています。医療・保健・福祉の情報を手軽に得たいも３５％を超えており、広報紙の充実が求められます。

自由記載の福祉に対しての取り組みや充実してほしいことへは、子育てから介護、施設の充実など様々なご意見をいただきました。

問４７　福祉のまちづくりのために取り組んでほしいことは何ですか。
主なもの３つまで○をつけて下さい。

番号	項目	人数	%
1	外出時（通院・買い物等）の交通手段	67	21.4
2	緊急時の連絡・対応	127	40.6
3	困りごとを相談する窓口をわかりやすくしてほしい	160	51.1
4	子育て中の母親・父親の仲間づくりの場がほしい	11	3.5
5	まちぐるみの健康づくり活動への取り組み	43	13.7
6	講演会やセミナー等、福祉について学ぶ機会がほしい	14	4.5
7	ボランティアなど人材育成をしてほしい	30	9.6
8	地域住民による助け合い活動への支援をしてほしい	22	7.0
9	学校での福祉教育	42	13.4
10	食事作りなど家事を手伝ってくれる人がほしい	9	2.9
11	介護不安の軽減をしてほしい	63	20.1
12	医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい	111	35.5
13	世代交流の機会を設けてほしい	8	2.6
14	座談会など地域で話し合える場がほしい	4	1.3
15	気軽に立ち寄れる交流の場がほしい	55	17.6
16	健康器具の整備	5	1.6
17	その他	7	2.2
	基本人数	313	



３　座談会結果（主なところを抜粋）

計画を策定するにあたり、地域の声を直接お聞きし、福祉の課題を把握することを目的に、下記のとおり座談会を開催しました。

【実施状況】

○平成２６年１１月２２日（土）実施

場所　　岩沼銀座繁栄会会議室
対象　　中央一丁目第一、第二、第三　住民
　　※参考→中央一丁目第一　５７世帯
　　中央一丁目第二　４５世帯
　　中央一丁目第三　６４世帯
出席者　男性：７名（うちジュニアリーダー１名）
　　女性：５名（本町在住者も参加）

○平成２６年１２月６日（土）実施

場所　　岩沼市総合福祉センターあいプラザ　大会議室
対象　　里の杜二丁目・三丁目住民
　　参考→　里の杜二丁目　２２０世帯
　　里の杜三丁目　３００世帯
出席者　男性：１５名　　女性：　３名

【手　　法】

- 参加者を２～４グループに分け、一人ひとり意見が出せるＫＪ法により「地域での支え合い」大きなテーマに設定して行いました。
- 「地域の良いところ」「困っているところ」をそれぞれ紙に書いて出していき、地域の課題をグループ全員で共有し、その課題に対して自分たちで取り組めることを話し合っていただきました。

座談会であがった地域の課題およびワーキンググループまとめ

・２地区の座談会を比較し、特筆すべき課題は・・・

① 中央は「集まる場所、きっかけがない」が課題といえる。

中央一丁目は昔から住んでいる方が多く、比較的住民間の関係性は良好である。しかし、高齢化が進んでおり、住民の半数近くが６５歳以上の高齢者であり、子どもがいる世帯は少ししかいないとのことであった。

そんな中で、より住民同士の交流を図り、高齢者を孤立させないためにどうしたらよいか？集会所がない、という課題を乗り越えるためにはどうしたらよいかが話の中心となった。

② 里の杜は「住民間の関係性をよくするために、住民のモラルや意識をどう高めるか」が課題といえる

里の杜地区は、創設されて約１７年と、歴史の浅い住宅地であり、かつ全国各地から移り住んできた方が多い地区のため「自分たちで地域を作っていく」という意識の高い方が、座談会に参加された傾向があった。

環境は整っているが、住民同士の力を合わせていかなければ、このよい環境は保たれない。やがて訪れるであろう住民の高齢化に備えるためにも、住民同士が交流を深め自分たちの力で、地域をよくしていかなければ、と住民主体での地域づくりが、話の中心となった。

以上のことから、同じ岩沼市内でも、地域ごとに生活環境や住民性は異なり、課題もそれぞれ異なることが改めて分かった。その中でも共通する課題、大きな問題については、市全体の問題としてとらえ、計画策定に反映していけばよいのではないか。

また、座談会の参加者から「一回の座談会では意見がきちんと反映されないのではないか」との声があったのを受け、計画策定後も継続的に地域の声を聞く機会を作る必要があると考える。

さらに、地域住民同士が、座談会のように意見交換の場を設けられるように、集まるきっかけづくりなどを支援していくのも社協の役割ではないか。など、地域との関わりについて考えるよい機会であった。

座談会の様子

（中央一丁目の様子）

まずは「地域の良いところ」を考えるんだっけ？

次は「地域で困っているところ」でしたよね？

最後は「みんなで取り組めそうなこと」を考えましょうか

（里の杜の様子）

自分が住む地域をどう感じているのか出し合いましょう

みんなの意見をまとめていきましょう

各グループからまとめを発表いただきましょう

地域福祉活動計画策定に伴う住民座談会のアンケート結果

項目	中央一丁目 （１１月２２日実施）	里の杜 （１２月６日実施）
参加人数／回答人数	１２名／１１名	１８名／１８名
性別	男性７名／女性４名	男性１５名／女性３名
年齢	１０代　１名 ５０代　２名 ６０代　４名 ７０代　２名 ８０代　１名 不明　　１名	５０代　３名 ６０代　７名 ７０代　８名
地域福祉活動計画について ① 座談会に参加して知った ② 以前から知っていた	① ８名 ② ３名	① １４名 ② ４名
地域福祉活動計画の策定について ① 十分理解できた ② 理解できた ③ 理解できなかった	① ４名 ② ７名 ③ ０名	① ２名 ② １５名 ③ １名
座談会の時間について ① 長く感じた ② 適当 ③ 短く感じた	① ０名 ② １０名 ③ １名	① ０名 ② １３名 ③ ４名
座談会の参加について ① 十分、参加や発言ができた	① ８名 ・前もって課題が分かればもう少し意見をまとめられた。 ・とても皆さんの発言がありよかったです。 ・顔見知りの方がいらして話しやすい雰囲気であった。お茶があったのも良い。 ・発言できないのかと思ったのですが、楽しくできた。 ・発言しやすいと思った。	① ４名 ・面白かったです。生の声を聞くのは大切ですね。 ・ＫＪ法を活用した座談会であり、意見を気軽に話せて大変良かった。

② 参加や発言できた ③ 参加や発言できなかった	② ３名 ・町内をもっと知って話したい。 ・地域の方たちと集まって何かやろうとしても集まる場所がない。集会所があればと思っていましたが、言えてよかったです。 ③ ０名	② １３名 ・身近な生活面について話せた。 ・町内会の回覧で座談会の企画を知り参加した。里の杜地区のみなさんの考え方も知りたかった。 ・となり同士の町内ということもあり、町内の事情がつかめて発言が出来た。 ・老人施設の充実。 ③ ０名
地域課題に対しご自身や地域で取り組めそうなことをご記入ください	・声掛け、コミュニケーションの強化。 ・何にでも参加していきたい。 ・今後、地区で積極的に取り組まなければならないと感じた。 ・挨拶をする。 ・町内の人とのコミュニケーションづくり。 ・高齢化が進んで寂しく生活している方が増えてきそうですので、お茶会とか頻繁に開きたい。	・女性の参加を促すための工夫をしたい。 ・地域の支え合い体制が絶対必要とさらに感じた。 ・地域課題は多くあるが住民が解決するには負担が大きい。 ・小学生（児童）の登下校時の声掛け見守り活動、ゴミ拾い、雪かきの積極的な協力。 ・まず自分で出来る物は自分でやるという意識を徹底していきたい。 ・近所の人の顔を知る、知ってもらう。 ・サークル活動の参加。 ・道のゴミ拾い屋冬の雪対策として自助・共助・公助を意識して行動する。 ・率先垂範：地域行事。 ・ゴミ拾いとあいさつを実行していきます。
座談会についてご意見、ご感想があればご記入ください	・また座談会を設けてほしいです。 ・これからも続けてあれば参加したい。	・問題点を解決するには要望点が多い。 ・大変有意義でした。

	・もっと参加人数が多くても良かったかと思いました。 ・継続的にこのような会があってもいいと思う。	・同一地域でこのような座談会は地域コミュニティの観点から大変有意義である。今後とも何かの機会があればお願いしたい。 ・各機関に対する要望等の取りまとめをしていただければ参加者の意欲も高まるのでは。 ・このような座談会を今後どしどしやって参加の敷居を低くして誰でも気軽に参加できるようにしてもらいたい。 ・高齢者が多い集会のように感じた。生産年齢の人たちがここに居を構え、どういう気持ちで暮らし、何を期待し要望しているのかの把握はどうなるのか不安なところ。

（文章ついては原文のとおり記載しています）

４　岩沼市地域福祉活動計画策定委員会設置規程

（目的）

第１条　この規程は、岩沼市社会福祉協議会（以下「本会」という。）の地域福祉活動計画を策定及び検証するため、岩沼市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置することを目的とする。

（組織）

第２条　委員会は、委員２０名以内で組織する。

２　委員は、次の各号に掲げる者のうちから本会会長が委嘱する。

一　住民を代表する者

二　関係団体等の役職員

三　関係行政機関の職員

四　学識経験を有する者

五　本会の役職員等

六　前各号に掲げる者のほか、地域福祉事業に関心があり、本会会長が委嘱することが必要と認めた者

（任期）

第３条　委員の任期は、委嘱した日から計画の策定及び検証を含む当該計画期間とする。

２　補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に、委員の互選により、委員長及び副委員長を置く

２　委員長は、委員会を代表する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。但し、最初に招集される委員会は、本会会長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（専門部会）

第６条　委員会に、必要に応じて専門部会を設けることができる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、本会事務局において処理する。

（委任）

第８条　この規程に定めるもののほか、運営に必要な事項は別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この規程は、平成１１年６月１日から施行する。

（任期の特例）

２　平成１３年３月３１日までに委嘱された委員の任期は、第３条第１項の規定にかかわらず同日までとする。

附　則

（施行期日）

この規程は、平成２６年６月１日から施行する。

5　策定委員及びワーキンググループ名簿

岩沼市地域福祉活動計画策定委員会委員　（五十音順）

No.		氏名	役職名	選出区分
1	委員長	菅原　清	寺島契約会会長（玉小学区）	住民を代表するもの
2	副委員長	小野　宏明	岩沼市商工会会長	関係団体等の役職員
3	委員	五十鈴川　みよ子	岩沼市社協総合企画部会部会長	本会の役職員等
4	〃	大山　秀雄	里の杜北地区福祉員	住民を代表するもの
5	〃	岡崎　文彦	中央一丁目第一町内会会長（岩小学区）	住民を代表するもの
6	〃	小笠原　仁一	岩沼市身体障害者福祉協会会長	関係団体等の役職員
7	〃	小野　定美	志賀町内会会長（西小学区）	住民を代表するもの
8	〃	斎　幸一郎	南の町町内会会長（南小学区）	住民を代表するもの
9	〃	齋藤　浩子	地域包括支援センター連絡会	関係団体等の役職員
10	〃	佐藤　隆信	桜第1南地区福祉員	住民を代表するもの
11	〃	鈴木　隆夫	岩沼市健康福祉部長	関係行政機関の職員
12	〃	西塚　国彦	宮城県社会福祉協議会地域福祉課長	関係団体等の役職員
13	〃	平井　昌子	岩沼市民生委員児童委員協議会会長	関係団体等の役職員
14	〃	山田　弘子	岩沼市手をつなぐ親の会連絡協議会会長	関係団体等の役職員
15	〃	吉田　章	岩沼市教育委員会教育次長	関係行政機関の職員
16	〃	吉田　八重子	岩沼市婦人団体連絡協議会会長	関係団体等の役職員
17	〃	渡邊　榮一	岩沼市老人クラブ連合会会長	関係団体等の役職員
18	〃	渡邊　美恵子	岩沼市市民活動サポートセンター職員	関係団体等の役職員
19	アドバイザー	阿部　重樹	東北学院大学教授	学識経験を有するもの

地域福祉活動計画　ワーキンググループメンバー

No.	氏名	役職名	備考
1	阿部　重樹	東北学院大学教授	
2	西塚　国彦	宮城県社会福祉協議会地域福祉課長	
3	亀田　明彦	岩沼市健康福祉部社会福祉課長補佐	
4	千葉　俊夫	岩沼市社会福祉協議会事務局長	
5	八島　浩一郎	〃　事業課長	
6	小菅　寿美	〃　総務係主任	
7	新妻　一典	〃　事業係主任	
8	諏江　伸	〃　総務係主事	
9	青山　奈保美	〃　事業係主事	
10	伊藤　沙織	〃　総務係主事補	
11	武田　松男	〃　デイサービスセンターさとのもり生活相談員	
12	渡辺　真	〃　居宅介護支援事業所管理者	
13	遠藤　和香奈	〃　地域包括支援センター社会福祉士	
14	山田　麻衣子	〃　復興支援センター生活支援相談員	

６　計画策定までの経過

日程	名称	内容
平成２６年 7月23日	第１回ワーキンググループ	○地域福祉活動計画の概要について ○策定スケジュールについて ○役割分担について ○基本理念について
7月30日	第１回策定委員会	○委嘱状交付 ○委員長・副委員長の選出について ○活動計画概要及び策定スケジュールについて ○基本理念について
8月20日	第２回ワーキンググループ	○住民座談会について ○アンケートについて
9月11日	第３回ワーキンググループ	○住民座談会について ○アンケートについて
9月24日	第２回策定委員会	○基本理念について ○住民座談会について ○アンケートについて
10月	アンケート実施	対　象：小学６年生・中学３年生 回答数：小学生　１２５名 中学生　１２５名
11月	アンケート実施	対　象：市民（無作為抽出） 回答数：３１３名
11月22日	座談会実施	対象地域：中央一丁目（参加者１２名）
12月6日	座談会実施	対象地域：里の杜（参加者１８名）
12月10日	第４回ワーキンググループ	○アンケート結果について ○座談会結果について ○基本理念・基本目標について
12月15日	第５回ワーキンググループ	○基本理念・基本目標について
12月19日	第３回策定委員会	○アンケート結果について ○座談会結果について ○基本理念・基本目標について
平成２７年 1月22日	第６回ワーキンググループ	○活動計画（素案）について ○意見公募について
1月29日	第７回ワーキンググループ	○活動計画（素案）について
2月5日	第４回策定委員会	○活動計画（素案）について ○意見公募について
2月１２日～ 2月24日	意見公募	ホームページ等での意見公募 意見　０件
2月26日	ボランティア座談会実施	対象者：ボランティア活動者（参加者２２名）
2月28日	座談会実施	対象地域：里の杜地域（参加者１１名）
3月5日	第８回ワーキンググループ	○意見公募・座談会結果について ○活動計画（最終案）について
3月12日	第５回策定委員会	○意見公募・座談会結果について ○活動計画（最終案）について ○答申

社会福祉法人岩沼市社会福祉協議会

〒989－2427　宮城県岩沼市里の杜三丁目4－15
TEL　0223-29－3711　FAX　0223-29－3341
URL　http://www.iwanumashakyo.jp/
メール　qq2f7da9@wonder.ocn.ne.jp